

TOKYO URBAN TECH

工学院大学 校 友 会 報



八王子キャンパス 工房・化学実験棟

vol.128

卒業生（校友会会員）の求職・転職をサポートします！

1. 求職・転職希望の卒業生（校友会会員）に朗報！

(1) 社会的な背景

- バブル経済の後遺症から抜け出し、ようやく建設業界では活況を呈してきました。
- 事業縮小等で人材を整理した反動から、人材不足の企業も多く見られます。
- 即戦力になる技術者の獲得が、特に活発化しています。

(2) 卒業生の声

- 企業倒産のため職を失う技術者も、後をたちません。
- リタイアされたシニア層の方々の再就職希望も、増えています。
- 大学の研究室には、卒業生からの就職相談が急増しています。

(3) 卒業生へ、校友会がサポートします

- 建築系を中心とする技術者の職業紹介を、校友会のサポートとして開始します。
- 建築系業務に係わる機械、電気、応用系などの方々もサポート致します。
- 卒業生の要求に応えることが、社会的急務になっています。

(4) 専門企業がサポートします。

- 日建学院のグループ企業(株)ニッケン・キャリア・ステーション（登録企業3,500社）が、全国主要都市にある135校の日建学院ともタイアップし、求人などの窓口として、皆様を強力にサポートします。

註、(株)ニッケン・キャリア・ステーション（厚生労働大臣許可13-ユ-090149）建築系資格取得教育を主な業務とする日建学院（全国135校）のグループ企業。建築系を中心に、人材紹介などを実施する建築業界に特化した会社。現在社員数140名（社員30名、派遣社員110名）顧客企業3,500社、登録人材6,000名。

(5) キャリア・カウンセリングを受けることが前提です

- 東京・横浜・大阪の(株)ニッケン・キャリア・ステーションで、キャリアカウンセラーによる面接可能な方を最優先致します。

2. 求職・転職希望の卒業生の方々は、まず登録をお願いします。

次の①～⑩を記入して校友会事務局へFaxするか、又は「求職者情報票」を校友会のH.P.からダウンロードし記入の上、工学院大学校友会事務局へFax 03-3342-2035して下さい。

- ①氏名、②性別、③年齢、④自宅住所、⑤自宅電話、⑥自宅Fax、⑦メールアドレス、⑧勤務先名（任意記入）、⑨本人連絡電話、⑩保有資格（1級建築士、2級建築士、インテリアプランナー、建築設

備士、技術士、宅地建物取引主任、その他）、⑪主なご経験職種（施工管理、意匠設計、構造、設備、土木、CAD、営業、リフォーム、インテリア、事務、その他）

3. 具体的な作業手順

(1) 上記の求職者情報①～⑩をFaxで、校友会事務局宛に送付してください。

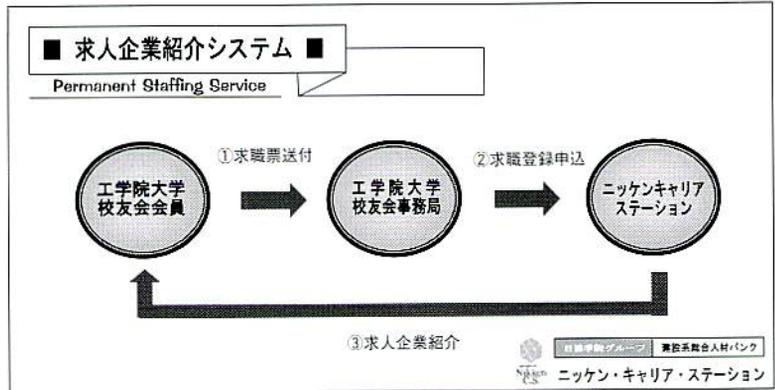
(2) 事務局より情報票の転送を受けた職業紹介専門企業(株)ニッケン・キャリア・ステーションのカウンセラーが、求職登録とキャリアカウンセリング実施日程（東京、横浜、大阪）及びその後のステップについて連絡（Tel、Fax、メール等）致します。

<個人情報等は守秘します。簡単な手続きです。>

工学院大学校友会事務局

Tel. 03-3342-2064

Fax. 03-3342-2035



詳しくは、下記のH.P.を是非ご覧下さい。

163-8677東京都新宿区西新宿1-24-2 工学院大学校友会

電話 03-3342-2064 FAX 03-3342-2035

<http://www.kogakuin.or.jp>

【目次】

新しい校友会について：長嶋秀世	1
そと見となか身	
ーいちばん大切なものは何かー：大橋秀雄	4
導入教育とオリエンテーションキャンプ：三浦宏文	5
学園の近況から：中澤宣也	6
八王子キャンパス整備の近況：淀川英司	7
生徒の興味を促す授業展開に向けて：太田忠之	8
専門学校校旗伝承式を終えて：大勝靖一	9
学園トピックス	10
支部だより	14
機械工学科教授退任にあたって：丸山一男	18
中国オールド高原の旅：定方正毅	20
心のこもったコミュニケーション：森茂樹	22
チャレンジ精神と問題意識の継続性：黒澤秀行	24
専門学校校史の編纂：阿部洵	26
第59回製図・作品展協賛第6回OB作品展：渡辺征三	27
高等学校の「新校舎と卒業生の進路」：竹花有也	28

中学校レポート10周年記念年、無事終了：橋本勉	29
校友会 校友会事務局からのお知らせ	30
平成19年度 支部総会開催予定表	30
第5号議案	31
第6号議案	32
「第62回評議員会・第51回総会」開催のお知らせ	33
学生・生徒の表彰報告	33
平成18年度貸借対照表、平成18年度財産目録	34
受章・受賞	34
平成18年度事業報告、平成19年度事業計画(案)	35
平成18年度収支計算書、平成19年度収支計算書(案)	36
緊急維持協力会費納入者一覧	37
計報	37
「第16回全国大会(沖縄)開催」のお知らせ	38
校友会役職者・評議員一覧	38

新しい校友会について

工学院大学校友会・会長 長嶋秀世



今年は、暖冬の影響で桜の開花が早くなり、すでに咲いているところもあります。この稿が皆様目に触れる頃は、風薫る爽やかな新緑の季節になっていることと思います。

いま、世の中では電力会社やプロ野球球団、菓子メーカー、官公庁の一部などで都合の悪いことを隠した結果、世間やマスコミから糾弾されています。校友会では情報公開、コンプライアンス重視、自己評価、自己点検を念頭に活動しています。

さて、校友会は、設立の目的と存在意義を高めるために、母校の発展と卒業生の幸福を目指して活動しなければなりません。ここでは、以前の校友会が行ってきたこと、平成16年から3年間実行したことについて紹介し、これから何を為すべきかについて述べます。

従来の校友会について

1992年に南雲芳夫氏が校友会長に就任し、12年に亘る体制が確立され、多くの単体同窓会の役員が留任し、組織並びに運営に硬直化が目立ちました。南雲会長は母校に強い愛情をお持ちでしたが、当時の執行部と学園との関係も不調で、期の終わり頃には公文書問題で混乱していました。その結果が平成17年まで尾を引き、正常な活動を妨げることになりました。

校友会の運営は、会長および各単体同窓会から選出される12人の人達が構成する常任理事会で日常の業務が遂行され、さらに単体同窓会から選出された48人が構成する理事会、年に1度開催される評議員会と総会で予算、決算など重要なことが決定されています。校友会の主な行事は、年の初めに開催される新年懇親会、5月の最終日曜日に開催される定期総会、そして3年に一度開催される全国大会で、目的に沿った活動を行っています。

平成16年から18年度までの政策

私たちは、校友会の目的に沿った活動をより効果的に行うために、各単体同窓会の財政一元化、学園支援プロジェクト、校友ネットワークの設置、大勢集まろうプロジェクト、就職支援プロジェクト、体育会連合OB会支部および教職員支部の結成、大学後援会との連携、政策諮問委員会設置などを実行し

てまいりました。

財政の一元化を進める中で、あることが原因で高校同窓会の納入すべき校友会費が滞っていることが発覚しました。これは平成7年6月の常任理事会で「高校同窓会に会費の管理を移管すること」を決め、その後のチェックを実施していなかったことが原因でした。この点を反省し、各同窓会の経理を明確にするため、その会計監査を校友会が行うことに致しました。また、全国大会の収支決算についても監事の要望により会計の明瞭化を進めるべく領収書の開示など、前期の理事会で決定していました。しかし、残念ながら今回の青森大会では些細な行き違いから領収書の呈示がまだに行われていません。会長としては監事の言うことを無視することはできません。会長や副会長が監事を意のままに扱うような組織であれば、独善や腐敗が進むこととなります。青森支部の領収書の速やかな呈示を期待しています。

次に、我々校友の原点である学園を支援することは定款に明記されていますが、従来は毎年決められたことを実行するだけで、支援活動は形骸化していました。ご存知のこととは思いますが、学園はいま、5ヵ年計画、DASH21に従って大きな改革を行っています。これらを成功させるためには、我々校友のバックアップも必要で、母校を積極的にアピールしていかなければなりません。校友の一人ひとりが自分の周りの家族、親族、友人、知人に働きかけ、工学院大学を知ってもらい、少しでも多くの人たちに、大学、高校、中学を受験してもらうと言う運動です。一部の人達には精力的に協力していただいているのですが、まだ大きな力とはなっていません。

いま、日本には7361万人がインターネットで情報を受け取ったり、発信したりしていると言われております。校友会の活動は、年1回発行される会報でお知らせしておりますが、もっと手軽に大学や校友会の情報を提供し、かつ校友の皆様のご意見を頂くことを目的に「校友Eネット」を立ち上げました。現在約1500名の校友が登録されております。情報の送信は月1回程度の子定でしたが、いまのところ2ヶ月に1度となっております。セキュリティには最大の注意を払っておりますので、校友会員の多くの方々が参加されることを望んでいます。ご参加いただける方は校友会事務局の

メールアドレス jimul@kogakuin.or.jp
まで、ご連絡を下さい。

さて、工学院大学の中には、学生の父母と教員で構成されている後援会という組織があります。後援会は子女である学生および大学への支援を目的に活動しています。校友会は目的を同じにするこの団体と連携し、母校の発展に寄与していくために、全国各支部と後援会の支部組織との交流を図り、地方出身の学生のUターン就職、卒業後の校友会支部活動への参加などを進めています。現在、すでに21支部ある後援会の16支部と連携を進めており、静岡支部では後援会と共同で技術フォーラムを開催しています。また、共同で行事を進めるために、後援会本部と校友会本部の連絡会議も開催されています。

このようなことで、数々の政策を実行して参りましたが、一度決めたことを反故にしてまた逆戻りしたこともあります。例えば、会報の126号の挨拶でも述べている校友による広告を掲載することも、1回実行しただけで、常任理事会の承認なしに勝手にやめています。これは一つの例ですが、部の組織がしっかりしていないため、このようなことが起きたことと思います。そこで、今期の最後に大幅な改組を行いました。

まず、会長の選出方法が変わりました。従来の方は、実質的に各単体同窓会の会長6人と常任理事6人の計12人で話し合いにより会長を決めていました。会長が決まると、副会長は各同窓会の会長が自動的になります。この方達が、総務部、財務部、広報部、企画部、事業部、組織部の総責任者となり、常任理事が担当部長となり各部の運営を行っていました。

新しい方法は各同窓会から選出された48人の理事の互選、無記名による投票で会長を選出します。48名の理事全員が会長候補となり、お互いの投票で決定します。この投票は無記名なので同窓会による締め付けなどができないこととなります。透明性と公平性は保たれます。

会長が決まりますと、会長が副会長を2人～4人を指名し、理事会の承認を得ます。ただし、2人については、理事からの指名とし、残りについては、広く会員の中から指名します。このことにより、これまでとは別の視野を持つ新しい人達に加わって

いただくことができます。今期からは、フォスター電機前社長の高田貢氏、佐世保重工業前社長の姫野有文氏に、校友会の副会長として力を貸していただくことになりました。

部の構成も変わりました。学園との協力関係を強化するために、学園連携部を創設しました。これにともない、従来の部を統廃合して、総務部、財務部、企画・広報部、組織・事業部、学園連携部の5部体制としました。各部の責任者を部長、副部長とし、実際に仕事のできる人を48人の理事の中から会長が適材適所で選べるように改めました。新しい執行部では、各部に対して、達成目標と期限を設定し、自己評価、自己点検を行いながら確実に目標を達成していきたいと考えています。

ホップ、ステップ、ジャンプ

平成16年からの3年間を含め、校友会の長期的な展望をまとめると次のようになります。

2004～2006期《ホップ》

- (1) 校友会活動の正常化
- (2) 学園支援の意識強化、実行
- (3) 組織改革、規約改正

2007～2009期《ステップ》

- (1) 校友会の組織強化、支部との連携強化
- (2) 学園連携、入学志願者の増加活動
- (3) 広報活動の充実、インターネット資源の活用

2010～2012期《ジャンプ》

- (1) 校友会費納入増による新たな学園支援
- (2) 卒業生の連携と親睦を目的とする楽しい行事を開催する
- (3) 学園との連携による新規事業の立ち上げ

おわりに

社会で成功した素晴らしい、尊敬できる人ほど母校に愛情を持っています。親、子供、友人、故郷、母校を愛していない人に本当に立派な人はいないと思います。

卒業生には事業に成功して欲しい、豊かな生活をして欲しいと願っております。社会的には、卒業生の活躍無くして学園の評価はあがりません。皆様のご活躍とご健勝をお祈りします。



副会長
(組織・事業部担当)
高田 貢



副会長
(学園連携部担当)
姫野 有文



副会長
(総務部/財務部担当)
渡辺 征一郎



副会長
(企画・広報部担当)
田野 道 幸裕



財務部部長
並木 光雄



組織・事業部部長
來住 康弘



学園連携部部長
世原 克



総務部副部長
島林 正美



財務部副部長
若栗 徳男



企画・広報部副部長
太田 正利



組織・事業部副部長
加藤 隆弘



学園連携部副部長
池崎 誠



監事
吉岡 利幸



監事
福田 忠彦



監事
楠 昭

各部の担当職務

■総務部

各種会議の開催、定款・定款施行細則、各種規程の制定改廃の検討を行なう他、学校法人をはじめ外部組織との折衝、調整を担当する。また、会員名簿の発行に関する業務、校友会事務局の統括業務を担当する。

■財務部

予算の編成、決算書の作成および予算の執行、資金調達に関する業務を担当し、また、校友会財産の管理および資金の運用に関する調査研究立案を行なう。また、監事が行う単体同窓会の会計監査の資料を作成する。

■企画・広報部

校友会の中期長期計画に関する調査研究立案および学園の将来計画に対する協力ならびに要請事項等の立案を検討する。また、卒業生に関する情報の収集及び動向の把握を行ない、「校友会報」の発行、校友会ホームページおよび情報ネットメールの管理に関する業務を担当する。

■組織・事業部

校友会会員、全国支部の組織化及び活性化に関する業務を担当し、支部への援助協力に関する業務を担当する。また、新年祝賀会、全国支部長会、全国大会の開催を担当する。

■学園連携部

学園の発展に寄与する諸施策の検討立案ならびにその実行に関する業務を担当する。また、学校法人との連絡調整を行い、大学後援会との連携も図る。さらに学園に協力する事業および学生生徒の奨励事業に関する業務を担当する。

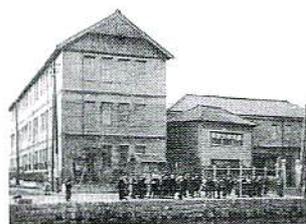
そと見となか身 —いちばん大切なものは何か—

工学院大学
理事長 大橋 秀雄



先日、NHKスペシャル「インドの衝撃 第1回 わき上がる頭脳パワー」をご覧になった校友の一人からファックスが入った。いまや世界的に有名になったインド工科大学と提携して、留学生の交換をはじめ交流を深めるべきとのご提案が書かれていた。インドはもともと、数学や理論物理など論理ベースの学問分野で著名な科学者を輩出してきた。その伝統と特性がITという振興分野とうまくマッチして、インド工科大学はIT教育の分野で突出した存在感を示すようになった。

校友からのファックスが引き金となって、今なぜインドかと考えたとき、私の脳裏にふと工手学校で学んだ学生たちの不屈な面魂が浮かんできた。以下その連想を辿ってみよう。下に示す写真には、築地時代の木造校舎と新宿高層棟が並んでいる。百年を越す歳月が建物の外観をこのように変えた。



築地時代の木造校舎



新宿高層棟キャンパス

しかし変わったのは建物だけではない。中の設備や、そこで行われる教育方法も大きく変わってきた。

製図を例にとってみよう。次の二つの写真が示すように、電球の下で学生たちがT定規と格闘している明治の製図室と、ディスプレイを前に学生たちがキーボードをたたく現在のCAD演習室では、設備も教育方法もまさに様変わりである。

建物の「そと見」も「なか身」の設備もすっかり変わった。しかし私がいちばん見たいのは、学生たちの心の中の変化である。どんな夢に駆られ、どんな目標に挑んでいるのか、それが知りたい。

明治の学生の心の中は、国木田独歩が描く「非凡

なる凡人」の主人公、桂正作が語ってくれるだろう。昼間は働きながら夜は工手学校に通う正作の胸の中には、工業で身を立てようとする強い志が燃えだっていた。一度だけ生きるこの世界で、自らの立つべき場所をどこにするか、それを求める強い心が立志である。多くの明治の若者を駆り立てた立志、その言葉自身が、いまの若者には理解しがたくなっている、まさに立志の退化である。



明治の製図室



現在のCAD演習室

木造校舎で学ぶ明治の学生を高層棟に引っ越させれば、ひと月もあれば順応するだろう。CADを習わせても、ひと月もあれば結構使いこなすだろう。そして彼らは、現在の学生をさっさと追い抜いて行く可能性がある。どんなに建物が立派でも、どんなに設備が充実していても、学生一人ひとりの成長は、結局は本人の意欲次第である。インド工科大学の目覚ましい興隆を支えているのは、実はインドの学生たちを駆動している強い立志意欲である。

豊かさと長く続く平和が、志を立てなくとも何となく食ってゆける状況を作りだしてきた。これは、日本だけでなく先進国共通の現象であり、悩みの種でもある。豊かでありながらも、志のある人生を送ることの意味を、親、学校、社会が協力して語り続ける、これより方法がないだろう。

校友の多くは、志に燃えて学校時代を過ごされたことでしょう。どうか後輩に、皆さんの熱い志を胸を張って移植して下さい。豊かさの中で忘れ去られた立志の大切さを、後輩たちに繰り返し語って下さい。

平成19年2月4日記

導入教育とオリエンテーションキャンプ



工学院大学

学長 三浦宏文

教育に関する議論が、マスメディアに大きく取り上げられています。ゆとり教育の見直し、学校教育の授業時間10%延長、週5日制の廃止などが話題に上っています。日本における教育体制の弱体化は、学生の学力低下という形で顕在化し、皆様の中にも、日本の将来に危機感を持ち始めている方が多いかもしれません。

我々大学教育に携わる者も、高等教育の大衆化に伴う諸問題に翻弄されていますが、単純に、学力低下だけではなく、様々な現象が現れてきていることを見過ごしてはならないと思っています。

現在の大学生に物足りなさを感じる点としてよく例に挙げられるのは、次のようなことです。

- ①学ぼうとする意欲が低下している。
- ②大学生活に適応できていない。
- ③友人や先生との人間関係をうまく作れない。
- ④課外活動へ参加する積極性がない。
- ⑤目標を持たず毎日を無為に過ごしている。
- ⑥精一杯頑張ることなく諦めてしまう。

などです。このような学生が少なからず存在することは確かで、現在の大学教育が有効に機能していないことを物語っています。

本学では、この状態を打破するためにいろいろな施策を考えて、実行に移していますが、今のところ重点を置いているもののひとつに「導入教育の充実」があります。

新入生を対象とした導入教育の重要性は、近年多くの大学が認識しており、多様な試みが報告されています。本学では、先行しているいくつかの大学から先生を迎えてシンポジウムを開くなどして、学習を重ねてきています。各学科では従来から、導入教育として、専門学問への橋渡しとなるような基礎演習等に工夫を凝らしてきましたが、今、更に新たな取り組みが求められています。

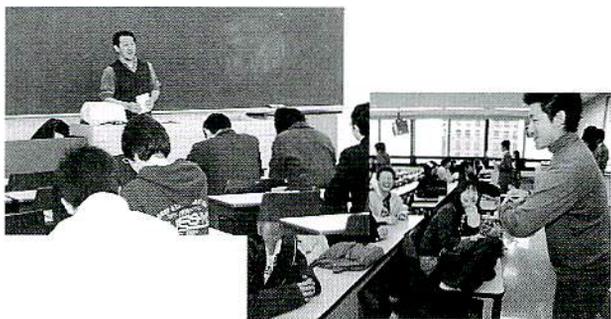
新入生は、大学進学がいろいろな意味で大きな足枷になっていた高校生活から抜け出し、新しい世界

を期待して、気力を充実させて入学してきているはずですが、しかし、大学生活が始まってみると、誰も知らない人ばかりの新しい環境になかなか馴染めず、悩みを一人で抱え、大学生活への意欲を失ってしまう学生が増えています。入学時の意欲を失わず、有意義な大学生活を始められるようにすることが、導入教育の要のひとつになっているのです。

そこで、4月の入学を控えた推薦入試および特別選抜試験合格者を対象に「入学前教育」(スクーリング、通信添削)を実施しましたが、更に新たな取り組みとして、入学式後あまり日の経たないうちに、学科単位でオリエンテーションキャンプを実施します。

同じ学科の新入生、教員、上級生、事務職員等が一泊の小旅行で寝食を共にする等により、親睦を深めるものです。最近の若者の中には、自分では、人間関係をうまく構築できないような人がどんどん増えてきていると言われていています。このキャンプを通じ、わからないことを気軽に聞いたり、悩みを相談できる親しい教職員や先輩、友人ができるならば、大学生活に早く馴染め、これからの4年間を充実させることができるのではないかと期待されます。

従来の導入教育に加え、オリエンテーションキャンプ等が功を奏し、本学が、すべての学生が澁刺と毎日を送る大学になることを願っています。



《入学前教育 スクーリング》

数学や英語の講座(写真左)のほか、本学の歴史や学生プロジェクトの紹介、最後には在学生との懇談(写真右)を行った。

学園の近況から

工学院大学

常務理事 中澤宣也



校友会の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

本学園も120年目に入り、125周年を目指して準備を始める時期になりました。最近の学園の歩みの中から二〜三ご報告申し上げます。

1. 中期計画のスタート

2006年から新たな中期5ヵ年計画「Dash21」がスタートしました。少子化と理工系離れの影響は予想外に大きく、工科系は苦戦を強いられておりますが、「プロを育てる、プロ。」の自覚のもと、「学ぶよろこび」を学生と分かちあおうと、教職員一同、今こそ“ダッシュ”と、頑張っているところです。巷間いわれる「即戦力になる人材」は、往々にして基礎がしっかりしていないために寿命が短く、「直ぐに役に立つ知識」は今日、明日は役に立っても明後日には陳腐化します。

「Dash21」は入学生を、高い潜在能力を持つプロとして社会に送り出すための、教育プログラム改革、教育環境整備に集中した計画です。もちろんそのためには、経営基盤の安定を図ることが前提であります。

2. 125周年記念事業着手

2012年には創立125周年を迎えます。どこにも追随を許さない技術者教育の歴史を大切に、その伝統を再確認しようと様々な活動を始めました。これから125周年にむけて、様々な場面で使用するロゴマークを決めました。学生、教職員、校友の皆様から公募し、多数の応募を頂きました中の優秀作品のコンセプトを援用し、本大学の美術の大竹敦人先生にリデザインして頂いたものです。これをキックオフに、事業計画を策定し、募金活動を開始します。学生達から、125周年には、「人工衛星」(CanSat、CubeSat)を打ち上げたいという声も上がっています。

また、歴史展示物コーナーの開設、創立から新宿移転までの「工手学校」の歴史を書いた本を、新書として市販する計画も進行中です。

3. エクステンションセンターの開設

既にお知らせしましたように、工手学校以来の伝統を引き継いできた専門学校は、平成19年度末に在生がいなくなる予定です。誠に憔悴たる思いですが、社会人の夜間教育という工手学校の確固とした伝統を引き継ぐ、「工学院大学エクステンションセンター」が4月から発足しました。従来のCPDセンターと生涯学習センターの組織を統合して、独立した生涯教育機関としたものです。技術者のCPD教育としての先端技術講座、情報セキュリティに関するCISSP資格や、建築士、電気工事士等の資格講座、そして、団塊世代の学習意欲に応える講座、それに一般向けの語学やパソコンの講座等の開設について準備を進めております。一日に延べ400万人の人が行き交う新宿駅から、雨に濡れずに来校できる地の利を生かして、もう一つの教育機関に成長できればと願っております。

おわりに

今春の入試状況を見てみますと、大学全入時代へ突入したと実感致します。学園の力は社会で活躍する校友であり、校友の数でもあります。皆様方の後輩が着実に増えていくこと、これが力です。校友の皆様には、それぞれのお立場で、誇るべき母校の現在の素晴らしい姿を、これからの若い世代にご紹介いただき、第二、第三の桂正作(非凡なる凡人)を母校に送り込んで頂ければと存じます。

また、学生の創造活動や、125周年記念事業をはじめとして、学園の諸活動へ、物心両面での熱いご支援をお願い申し上げます次第です。

以上

八王子キャンパス整備の近況



工学院大学

施設担当常務理事 淀川英司

大学全入時代を迎え、アメニティ豊かな魅力ある施設・設備を持つキャンパスの整備は、学生に選ばれる大学となるための必須の要件であり急務であります。八王子キャンパス整備は、2004年8月に作成したマスタープランのガイドラインに基づいて進めています。ここでは、昨年3月竣工した工房・化学実験棟と現在建設中の学生センターについてご報告いたします。

1. 工房・化学実験棟

ロボットコンテスト、鳥人間コンテスト、EVフェスティバルなどへの参加のための学生達の「ものづくり」の場、学生達が気楽に集うことのできる場、新入生の学力不足の分野を教員が個別に指導し、学習を支援するための場が強く求められていました。また、バイオケミストリーの研究環境の整備も急務となっていました。これらの期待に応えて建設したのが工房・化学実験棟です。建設場所は、「創作ゾーン」の中（学生寮C棟跡地）です。建物は、鉄筋コンクリート造、4階建（地下1階、地上3階）、延床面積は、約4,768㎡となっています。地下1階には約500㎡の学生ホール、地上1階には、約590㎡の学習支援センターと約480㎡の夢づくり工房、地上2、3階には、化学系研究室（150㎡×8研究室）がそれぞれ配置されています。キャンパスの中央部に位置し快適な居住空間となっており、夢づくり工房、学生ホール、学習支援センターは、学生達の集う拠点となっています。設計は、株式会社昂設計の平井真夫氏、施工は清水建設株式会社が担当しました。2005年7月に着工し、2006年3月に竣工しました。

2. スチューデントセンターの建設状況

現在の食堂棟および厚生棟は、老朽化が進み、多様化する学生のキャンパスライフのニーズに十分応えられない状況にあります。そこで、学生達が授業

の間に休憩したり、食事をしたり、学生同士が交流したり、クラブ活動をしたりするキャンパスライフを支える拠点施設として、学生センターを建設することとしました。建設場所は、「フォーラムゾーン」の中（学生寮A、B棟跡地）です。建物は、鉄骨・鉄筋コンクリート造、4階建（地下1階、地上3階）、延床面積は、約5,700㎡となっています。内部には、多目的ホール、クリエイション・ラボ、ダイニング、生協売店、カフェ、フォーラム、就職支援センター、自治会室、体育会室、文化会室等があります。キャンパスにおける学生の交流と生活の新しい拠点となる施設をめざしています。設計は、指名型設計プロポーザル方式により、第1次および第2次公開審査を経て選定された、澤岡清秀+山本・堀アーキテクツ設計共同体、施工は株式会社銭高組が担当しています。2006年11月に着工し、2007年10月末竣工の予定です。

平成19年2月12日記



工房・化学実験棟

生徒の興味を促す授業展開に向けて



工学院大学附属中学・高等学校
校長 太田 忠之

昨年4月高等学校が犬目の仮校舎から竣工なった新校舎に移り新しいスタートを切りました。竣工披露式典は6月17日に新校舎のアトリウムで学園内外のお世話になりました多くの方々のご出席のもとに催されました。校友会からいただきました新校舎竣工記念のお祝い金により、アトリウムの明るさの中で使えるバックライト式のプロジェクターとスクリーンを設置いたしました。厚く御礼申し上げます。

次いで7月10日に、生徒のための天文台開所式を東京大学宇宙線研究所の森正樹先生の記念講演「いろいろな宇宙の見方」と成蹊高等学校の宮下先生の「高校生の天文部活動の紹介」を中心に行いました。本校の天体望遠鏡は高等学校としては極めて高い性能のものであり、生徒たちの利用と活動を進展させることがDash21の重点目標の一つです。

中学校は開校10周年の記念式典を9月16日に、また12月18日には小柴昌俊先生の記念講演会－「おおいこと、ちいさいこと、そして人間」－をアトリウムで開催しました。



高等学校1階 アトリウム（理科教室開催）



高等学校天文台公開（2007.2.17）

小柴先生が生徒たちに最も強く訴えられたのは、「これならできる、というものを見つけることが大事。そのために、おじげんかずにいろいろなことを試してほしい。」ということでした。

多くの行事が重なった一年でしたが、中高一貫教育、大学附属学校への社会の関心の高まりの中で本校の教育もいっそうの充実を図る努力をしなければ取り残されてしまう危険性があります。学校の最も重要な責務は「生徒の興味を促す授業を展開する」ことであり、そのためには教員自身による不断の授業の研究、相互研修が不可欠です。また一方でいくら優れた授業の展開がなされても、生徒の学習習慣の定着なしでは学力の向上は望めません。家庭の理解協力が必要です。新年度はこれらを課題として教職員一体で取り組む所存です。

工学院大学 校友子女特別選抜入学試験が始まります！

2008年度入試から、工学院大学への入学を希望される校友の皆さまの子女を対象にした特別選抜試験が行われます。工学院大学校友会では、校友の皆さまの技術者への志、120年間技術者を育成してきた学園の建学の精神が、この選抜試験により次の世代まで継承されることを期待しております。

概要は以下のとおりですが、詳細につきましては必ず工学院大学アドミッションセンター入学課発行の募集要項（9月中旬から配布、無料）をご確認ください。

■出願資格■

以下の①～③の要件をすべて満たしている方

- ①高等学校若しくは中等教育学校を卒業しているか、あるいは2008年3月卒業見込みの方、又は高校卒業者と同等以上の学力があると認められる方。
- ②本学園（大学・大学院・高等学校・中学校・専門学校およびこれらの前身の学校を含む）の卒業生・修了生の子、孫、甥、姪であること。
- ③評定平均値3.2以上である方。

■選考方法■

書類審査、面接、
基礎学力調査（数学、英語）

■試験日程■

出願期間：10月20日(土)～11月1日(木)消印有効

選考日：11月10日(土)

選考場所：工学院大学新宿校舎

合格発表：11月17日(日) 郵送で通知します。

■募集学部・学科・人数■

学 部	学 科	募集人数
工学部第1部	機械工学科	若干名
	機械システム工学科	
	応用化学科	
	環境化学工学科	
	マテリアル科学科	
	電気システム工学科	
	情報通信工学科	
	建築学科 建築都市デザイン学科	
情報学部	コンピュータ科学科	若干名
	情報デザイン学科	
グローバルエンジニアリング学部	機械創造工学科	若干名

問合せ・募集要項請求先

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2

工学院大学 アドミッションセンター入学課 TEL：03-3340-0130 FAX：03-3342-5304

ホームページ：http://www.kogakuin.ac.jp/nyushi/

各学科のアドミッションポリシー ～こんなキミを待っています！～

工学部機械工学科

機械工学科では、人間社会や地球・地域環境に配慮して総合的に物事を捉え、国際的な視野に立つ幅広い知識と技術者倫理を持って、機械工学の専門領域まで見渡すことができる技術者の育成をめざしています。「基礎学力」だけでなく「豊かな感情」「柔軟な思考力」「自ら学び、自分の能力向上を図る意欲」を有し、「コミュニケーション能力」の素養があり、ものづくりに興味を持つ学生を歓迎します。

工学部機械システム工学科

機械システム工学科は、機械要素と知能を組み合わせて機能化した機械システムの設計や製造、保守管理などの分野で活躍する技術者の育成を目的としています。そこで機械工学の主要科目をベースとし、さらに、システム工学、ロボティクス、制御工学などの横断的な科目を学びます。将来の科学技術の発展を担う意欲あふれる学生の入学を歓迎します。

工学部応用化学科

応用化学科では、化学と生物を融合した視点に立ち、反応化学、合成化学、生物化学の見地から実践的に課題に取り組み、化学の知識と技術を人間社会の生活向上のために活用できる技術者や研究者を育成することをめざしています。私達は、物質と人間生活との関わりに幅広い関心を持ち、化学の手法を駆使して社会に貢献することを志す学生の入学を希望します。

工学部環境化学工学科

環境化学工学科では、「環境」、「エネルギー」、「物質」について、調和のとれたシステム化を行う「環境化学工学的手法」を身につけた化学技術者の育成を目的としています。将来、環境保全にかかわる化学技術者として社会への貢献を果たすため、地球環境から市民生活までの幅広い視野と総合的な基礎学力を持つ学生の入学を歓迎します。

工学部マテリアル科学科

マテリアル科学科では、私たちの快適な生活を支えるのに必要な高分子、セラミックス、金属の三大材料およびそれらの複合材料すべてを、化学に基礎を置いて考え、取り扱えることのできる技術者・研究者の育成をめざしています。私達は、化学を基礎として、科学と技術の両面から工学全般の基礎であるマテリアル物質・材料を学ぶ意欲あふれる学生の入学を期待します。

工学部電気システム工学科

電気システム工学科では、電気システム技術者として、エネルギー、資源、環境、交通、制御、安全などの社会活動・生活全般に関わる基盤的な課題を支える技術者の育成をめざしています。特に情報（IT）とシステムの実践的実用知識の教育を充実しました。電気に関心があり、さらに情報（IT）やシステムの勉学にも積極的に取り組む意欲ある、地球と人に優しい心を持つ学生の入学を期待します。

工学部情報通信工学科

情報通信工学科では、将来の情報通信、情報メディア、

情報エレクトロニクスに関わる上で必要となる総合的な基礎学力、柔軟な応用力及び創造力を兼ね備えた人材の育成を目標として掲げています。このため、これら三分野に必要となる学力を養い、その上で専門教育を修得します。現在は漠然としたものでも構いませんが、情報技術に少しでも興味があり、かつ将来に夢を持ってこの分野に関わる面白い仕事をしてみようという学生の入学を大いに歓迎します。

工学部建築学科

本学科では、人間と社会への深い理解と高度な技術力から環境にやさしく安全で快適な建築物を創造できる人材の育成を目標としています。文系・理系を問わず、建築を学ぶ上で必要な幅広いバランスのとれた基礎学力を身に付けた上で、将来、建築物に関わる高度な技術力や環境、安全に対する豊かな感性など幅広い知識と、プロジェクトを実践するマネジメント能力を身に付け社会に貢献しようとする、強い意志をもった学生の入学を希望します。

工学部建築都市デザイン学科

本学科では、豊かな生活・社会環境を創り上げていくことに関心を持ち、建築や都市をデザインするプロフェSSIONナルや、まちづくりの専門家として活躍できる人材の育成を目標としています。文系・理系を問わず、建築・都市を学ぶ上で必要な幅広いバランスのとれた基礎学力を身に付けた上で、将来、デザインやまちづくりに関わる豊かな感性と幅広い知識と、プロジェクトを実践するマネジメント能力を身に付け社会に貢献しようとする強い意欲のある学生の入学を希望します。

情報学部コンピュータ科学科

コンピュータ科学科では、情報化社会にはなくてはならないコンピュータの利用を通して、人類社会に快適な生活環境を提供できる技術者の育成をめざしています。今や私たちの社会に欠かせないコンピュータの仕組み・基本技術や、ソフトウェア、人工知能、情報セキュリティ等への興味を持ち、国際的に活躍することを志す学生の入学を期待します。

情報学部情報デザイン学科

情報デザイン学科では、情報化社会にはなくてはならないコンピュータの利用を通して、人・情報・技術の心地よい対話を実現し、人類社会に快適な生活環境を提供できる技術者の育成をめざしています。人に優しい社会の構築に向けて、豊かな感性を持ち、文系の素養も含めた広い視野を持った、国際的にも活躍することを志す学生の入学を期待します。

グローバルエンジニアリング学部機械創造工学科

機械創造工学科は、国際的なコミュニケーション力を兼ね備え、大学を出てすぐに世界を飛び回って活躍できる真のグローバルエンジニアの育成を目的としています。「基礎・専門工学知識（知識力）」を基盤として、幅広い技術問題を理解できる教育を行い、その上で「ものづくり」を楽しむ学科です。「ロボット・医療機器、クルマ、コンピュータなどに興味がある」意欲あふれる学生の入学を歓迎します。

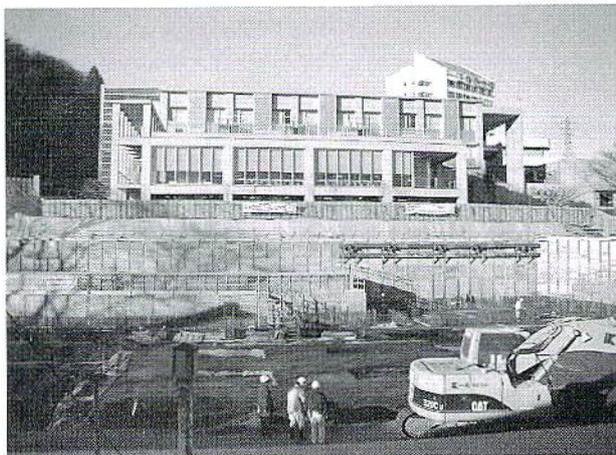
学園トピックス

新校舎竣工

八王子キャンパス内の学生寮跡地に「工房・化学実験棟」が竣工しました。この新校舎には、学生が気軽に利用できる工房や学習支援センター、また化学系の実験室や研究室が設けられています。（表紙写真参照）また、今年の会報でも紹介しました附属高校新校舎も竣工し、生徒たちが新しい学び舎で勉学・スポーツに励んでいます。

スチューデントセンター建設

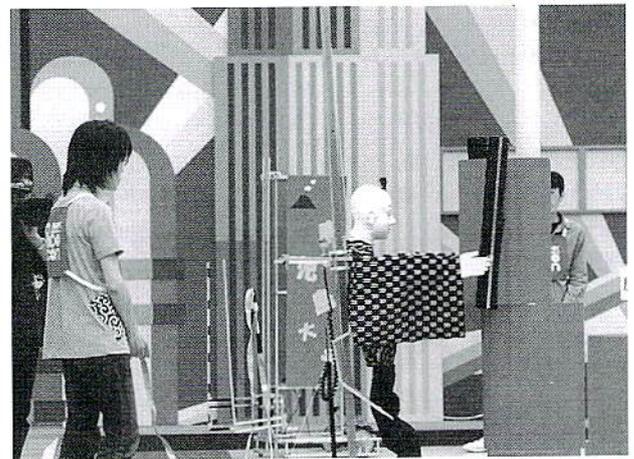
八王子キャンパスにスチューデントセンターが建設されます。建設地は桜並木のメインストリートに面したキャンパス中央です。設計は昨年実施された設計プロポーザルの最優秀案を具現化したものであり、学生生活の拠点となる、食堂を中心とした厚生施設となります。建物は4階建てで、最下層には店舗、学生の課題制作スペース、300人収容の多目的ホールを配置し、その上に2層吹き抜けの食堂、最上階に就職支援センター、ラウンジ、学生活動のための部屋となります。最上階は今年竣工した工房・化学実験棟（17号館）1階にある学習支援センターのレベルとブリッジで連結され、車椅子でも自由に行き来することができます。建設工事は2006年11月着工、2007年10月竣工の予定です。



NHK大学ロボコン2006で本学チームがベスト4に

2006年6月11日(日)、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センター大体育館で開催された「NHK大学ロボコン2006～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～」において、本学ロボット・プロジェクト（KRP）チーム「しんぱち」が、見事ベスト4に輝きました。

ABUロボコン代表選考会は、ビデオ審査など厳正な審査の結果選ばれた精鋭18大学チームで争われました。本学チーム「しんぱち」は、予選リーグで九州大学と鹿児島大学に圧勝して、決勝トーナメントに進出しましたが、準決勝第2試合で昨年のABUロボコンのチャンピオン東京大学と対戦し、残念ながら敗退。結果は2003年大会と同じ準決勝まで到達しましたが、あと一步のところでした。



第6回ホームカミングデー盛況に終わる。

ホームカミングデーは、学園各学校の卒業生に学園の現状を直接ご覧いただき、懐かしい恩師や学友との再会と交流・親睦を深めていただくために、学園が開催している行事です。第6回を迎え250名を越す参加者で、盛大に執り行われました。2007年度も11月3日に開催予定で、校友会も協力しております。招待された方は是非ご参加ください。



一級建築士大学別合格者数で上位ランキン

建築分野におけるもっとも上位の国家資格である一級建築士試験において、工学院大学卒業生が今年も実力を発揮し、好成績を取めました。この試験を行っている財団法人建築技術教育普及センターのホームページに掲載された大学別合格者数一覧表によると、工学院大学は第6位にランクされています。年間の卒業生数などを考慮に入れば、6位というのはすばらしい成績で、工学院大学の教育の成果と卒業生の努力といえるでしょう。

平成18年度出身大学別一級建築士合格者数一覧
(上位10校抜粋)

大学名	合格数(人)
日本大学	205
東京理科大学	101
芝浦工業大学	82
早稲田大学	82
近畿大学	73
工学院大学	63
京都工芸繊維大学	56
大阪工業大学	56
明治大学	48
法政大学	46

日本EVフェスティバルで3位入賞

2006年11月3日(金・祝日)茨城県つくばサーキットで開催された「電気自動車の祭典 第12回日本EVフェスティバル」(日本EVクラブ主催)に「工学院大学FCEVプロジェクト」チームが出場し、手作り電気レーシングカート(ERK)によるジムカーナのトーナメント戦「ERKデュアルジムカーナ(クラス:ERK-1)」部門で3位に入賞しました。日本EVフェスティバルは、手作りEV(電気自動車)を走らせ、EVの可能性を広げて楽しさを発見する市民によるEVの祭典で、今回で開催12回目を数えます。



日本初の液体アンモニア燃料電池車を開発

2007年2月、本学グローバルエンジニアリング学部機械創造工学科雑賀高教授らの研究グループが、日本初の液化アンモニアを燃料とした「燃料電池自動車」を開発しました。

雑賀教授らの研究グループが開発した燃料電池車は、市販の軽自動車をベースに、液化アンモニアのボンベ、アンモニアから水素を取り出す分解装置、電気を発生させる燃料電池システム、電気を蓄えるバッテリー、駆動用の電気モーターを搭載しています。この燃料電池車は、アンモニアから取り出した水素を酸素と化学反応させ、発生した電気を動力とする仕組みで、爆発などの危険のある液化水素を使用する従来の燃料電池自動車に比べ、安全性が大幅に向上できるなどのメリットがあり、下水処理などで回収したアンモニアを有効活用できる可能性があるとのこと。

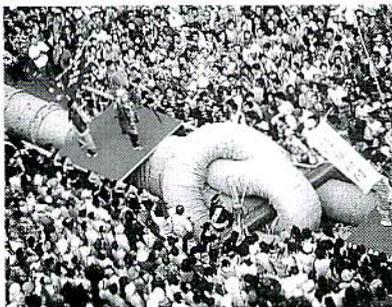
支部だより

沖縄県支部

芳田眞喜人 沖縄県支部・支部長

昨年の校友会報VOL.127号にて第16回全国大会沖縄大会への(2008年10月11日開催)ご挨拶文を掲載させて頂きました。今回は全国大会沖縄大会が開催される10月11日の翌日に行われる那覇大綱挽きの、祭りの状況と支部活動の近況報告をさせて頂きます。

先ず那覇祭りに使用する大綱はギネス記録認定世界一の綱で全長が200メートル、直径1.6メートル重さ43トンの大綱を地元の方や観光客が東西に分かれて、ドラや鐘、太鼓が鳴り響く中、数万の大群衆がひしめき合い、綱を引きます、その光景はまさに圧巻であります。私も数年に一度は参加し楽しく綱を引いています。(ネットで那覇大綱挽と、検索すれば写真等詳細が解ります。)



支部活動の主な行事ですが①2ヶ月に1回の役員会②懇親ゴルフコンペの開催(毎年3月、7月、11月の第一土曜日に行っています)③年1回の定時総会開催 昨年は11月22日火曜日に実施しました。全国大会が沖縄で開催される事もあり本部からの参加もあり大会成功に向けて、氣勢を上げる事ができました。特に今年は大学の学園歌を参加者全員で斉唱し、気持ちの一つに出来たのは非常に良かったと思っています。沖縄は青い海、青い空に象徴される南国

の島で琉球王朝によって生まれた独特の芸能文化がある 美しい県・沖縄での全国大会開催です、家族揃っての参加をお待ちしています。

台湾校友会

劉 維隆 台湾校友会会長

国外に只一つだけある支部、台湾校友会は当時本部側の役員関係諸先輩の極力の御支援の元、昭和51年6月13日に創立しました。創立当時は校友十数名、地方総会の時には夫人同伴の上に、本部役員等も参加して下され親密な会合をして来ましたが、時代の潮流に中国大陸の急激な経済発展に若校友は開発に渡行してしまい(今台湾から大陸に2,300万人渡って居る)残る老校友は数人と寂寥な会となりました。本部側にも度々新校友の紹介をお願いして来ましたが、在校生が少ないのでなかなか意の如くならずの現状です。

時々、日台校友と連絡を取っておりますが、地方総会はこの数年開催をしておりません。幸いに最近学校側の大倉利典先生からの御便りに依りますと今年から母校と台湾の南台科技大学との留学生の交換を結んだ由、今後台湾からの留学生の修了帰国後、入会の日を期待しております。

昨今の台湾の建設方面を簡単に御紹介致します。

中国大陸、日本、台湾と3番目に巨額の外貨を所有してあるので21世紀に向けて各方面の建設が着々と進行しております。2004年12月31日に世界で現在の所1番高い高層ビルTAIPEI101 (Bringing Taipei to the world) が建設されました。地上101階、地下5階、高度508m、89階に室内展望台、91階に室外展望台があります。

台北から蘇澳までの5号高速道路

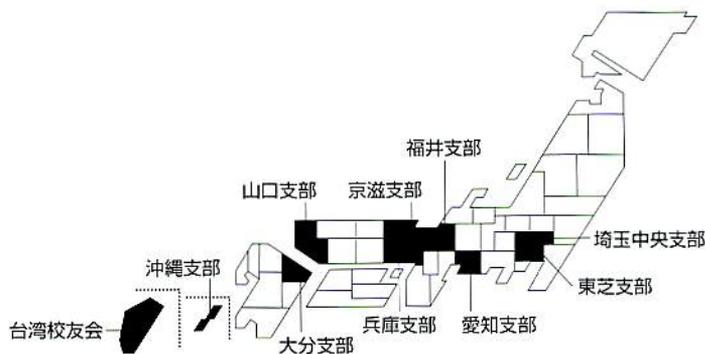
で途中、雪山山脈を通過します。雪山トンネル全長12.9km世界第5位、東南亜細亜第1位の長トンネルが12年の歳月を費やして、昨年10月に開通しました。建設中に地下流動水道に合い、施工困難となり一時は設計を変更、他遷する問題も出ましたが、高経験を持つ日本の技術者の技術提供現場施行の御協力の元に通りました。今迄は1時間以上を費やした車程を今は十数分で走れるようになりました。

台北から高雄までを結ぶ高速鉄道日本と同様の新幹線が1998年に日本を始め23個の国家専門人員の2年間の企画4000人工作員の堅持興努力で6年間の歳月を費やして、今年の1月5日に試運営を開始しました。全長345km、旧鉄道では4、5時間費やしたが、今では1時間半で走っています。車体は日本の現在使用中と同型で日本の新幹線が首次に海外輸出した製品です。総工程費用台湾円4800億円(日本円約1兆7500億円)費やしました。

「歓迎校友来台観光並体験興日本国内同舒服的な高鉄滋味 再会」

(校友が台湾観光に来られるのを歓迎し国外で快適な新幹線を味わって下さい。さようなら)





埼玉県中央支部

黒澤兵夫 埼玉県中央支部・支部長

校友会埼玉県中央支部は、昨年に引き続き、平成19年の年頭に当り、役員会を兼ね新年会を開催しました。埼玉県中央支部では、毎年、年頭の役員会において大きな行事、「総会」「講演会」「会報誌」「ゴルフコンペ」「親睦旅行」等の企画の大要と大日程計画を決めることにしています。若い会員の発掘と参加への勧誘を図っていくことを強力に進めることになりました。

また、「工学院大学ここにあり」と大学の知名度向上に貢献すべきと、埼玉県の関係機関に働き掛けていくことにしています。

愛知県支部

島林政夫 愛知県支部・支部長

久しぶりの支部近況報告です。毎年、支部長会議の席上で報告していますが、特に変わらばえしない状況です。年1回の支部総会、ゴルフコンペの開催総会での話題は参加者の少なさ(平均18名)と若年層の出席が少ないのが悩み、支部の活性化の為の妙案も無し……。何とか継続しているのは、参加者の激励があつてこそと思う次第です。(少々愚痴ばかりになりました)

『健康』・『年金』・『孫』の話題が中心になりがちですが、当支部は毎年、総会にコンパニオンを呼んで「若さ」をアピールすべき、高年齢化した参加者を学生時代の気持ち戻って頂き、コンパニオンに負けない?懇談に花を添えております。歳には負けますが、経験、話題の豊富さでは一枚も二枚も上手だと自負している仲間です。ただ、技術屋集団とあって少々堅いのが難点か?今年

もコンパニオンを呼んで盛り上げるぞ……(この機会に新規出席者、大歓迎します。)



話は変わりますが、昨年は「絆」が話題になりました。我々、校友も先輩、後輩の絆で繋がっています。私し事ですが、某支部長さんと校友会を通じて面識が出来、ビジネス上でもお世話なり、貴重な情報を頂き感謝しております。出張の時には時々、食事を伴にしております。ビジネス上の情報交換ではありませんが校友なればこそ親身になり相談出来たと感謝します。この機会に横のネットワークにも広がり、貴重な人脈作り大いに役立ております。校友の皆様、『絆』を合言葉にもっと校友会の輪を広げてみませんか。

福井県支部

吉川博邦 福井県支部・副支部長

ここに平成18年度の福井県支部の活動をご報告いたします。

平成18年7月2日(日)越前市「立葵」にて、(社)工学院大学校友会組織部理事 都築登輝浩様を来賓とし、総会を開催いたしました。永年、福井県支部長職でご労苦頂きました干田様が県外に転居されることに伴いまして、県支部長として全会一致で中西凌獄氏を選出いたしました。総会では校友会事務局のご指導の下、支部規約承認と役員指名を行い、懇親会にて交友を深めました。

(総会の写真は、<http://www.kogakuin.or.jp/koyukai/index.htm>)

7月6日には総会欠席された支部役員の宇野浩光氏(享年50歳)が死去なされるという訃報が入り、支部長、副支部長が葬儀に参列しました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

さて、福井県支部の一大イベントとしまして、工学院大学(工手学校)創設者であります渡邊洪基先生の顕彰碑建設を大学及び校友会より依頼を受け、越前市養徳寺内に遺徳顕彰として顕彰碑、案内看板設置と墓石の整備がされました。その完成お披露日が11月25日(土)に執り行われました。

ご遺族の渡邊洪様、渡邊暢久様、工学院大学からは大橋理事長様、横山学長補佐様、高橋総務部長様、校友会からは渡辺事務局長様、越前市からは中島教育長様、市文化課齋藤課長様、養徳寺出雲住職様、檀家総代水上様をお迎えしまして、越前市養徳寺にて無事執り行われました。福井県支部からは、中西支部長、村井、藤井、吉川副支部長が出席いたしました。

ここ福井県越前市は、偉大なる渡邊洪基先生の出生地(旧武生市京町二丁目蘭方医渡邊静庵の長男として)であると共に、墓(永平寺東京別院の長谷寺、「夢」一文字が刻まれた「正定院釈旦堂不退居士」から分墓)もある山緒深い地であります。

元老院議員、東京府知事、(東京府マーク現在の東京都紋章を考案)、帝国大学初代総長、特命全権公使(オーストラリア、スイス赴任)、衆議院議員、貴族院議員に勅撰、明治34年55歳で死去された先生の生涯を取載された「渡邊洪基伝-明治国家のプランナー」を支部事業として総会出席者に、配布いたしました。来年は、工学院大学創立120年です。

益々のご発展と引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、宜しく願い申し上げます。

京滋支部

伊藤 肇 京滋支部・支部長

ニューフェイスのご参加を！！

こんにちは、大阪の北摂地域、京都府と滋賀県の会員で構成している京滋支部です。

例年暮れに、京都の「きよみず」で開催する定例総会で一年の締めくくりを行い、1月から新しい年の活動開始となります。総会は常連参加者とニューフェイス数人、時には奥様同伴と楽しい会となり特に第2部の宴会は盛り上がります。

しかし、年々会員の高齢化は世の流れ、私達の支部も退職組みが増え若い会員皆様の入会を促進するのが大きな課題となっています。京都・滋賀にも多くの企業があり、後輩たちがたくさん働いていると思われませんがなかなか連絡が取れません。同窓の校友が集い、色々な情報交換や有益な話を得て励まされたり、慰められたり時にはビジネスにつながったりと、大変有益で楽しい集いです。ところが、全国に支店や工場がある方達は、せっかく顔出しをして頂いても数年後には異動、音信不通になり何か良い方策がないかと頭を痛めています。春夏秋冬1回程程度の食事会等の親睦を中心とした行事を行っておりますが、今年の夏の納涼会には帰省中の学生諸君を招待し、将来の会員と接触してはと考えています。毎年、琵琶湖で開催される「鳥人間コンテスト」で母校の学生を彦根まで応援に行ったことはありますが…京都、滋賀の職場に働く後輩達や学生がもっと気楽に支部と連絡をとって行事に参加していただければ幸いです。人生経験の豊かな先輩達をいろんな面で活用しない手はないと考えます。また、同窓の方で、支部に顔を出していない方や他支部から

の異動情報等があればぜひ気軽にご連絡をお願いします。

連絡先：伊藤肇 電話0749(22)7470
携帯090-3050-8130



兵庫県支部

石川良子 兵庫県支部・世話係

兵庫県支部は大阪支部から独立し兵庫県支部として立ち上げ、本年28周年になります。支部会員数は約250名。連絡の取れる会員はこれよりもっともっと少なくなりますが、このような投稿の機会を与えていただき、支部総会についてご報告させていただきます。

支部総会開催にあたっては世話係が非常に努力してくれております。校友会本部と大阪支部の方々のご臨席をいただき、会員は毎回20～30名が出席、これは連絡のつく会員数で計算した場合約15%ほどでまだまだ努力が必要と考えており、特に20代・30代の会員の参加増に力を入れております。何故なら、参加者の顔ぶれが固定され、毎年平均年齢がアップしていくだけの総会では何の意味も発展ありません。若い方々に参加していただくことこそが、校友会への認識を深めその結果、校友会発展にもつながるものと考えます。

“若い会員から見た魅力ある支部総会にするためには”のテーマは、世話係の会合では永遠のテーマです。これと言った結論にはいまだに至っておりませんが努力は続けてお

ります。たとえば子育て世代の参加費の軽減、初参加者への歓迎レモニー、次回参加の確約…等々総会でアンケートをとり、会員の意見をいただき次年度につなぐ努力しました。

年一回の総会ではどれだけのつながりがあるいは団結を維持できるのか。試行錯誤の中、一方では一回のその日が回ってくることのよさに手が回らないのも事実です。業務整理をしながら次回の準備をしているのが実状です。しかし昨年嬉しいうことがありました。若い世代が総会の席上で自主的に年内第2日の懇親会の話をもとめて実行してくれたことです。参加者は6名でしたが立派なことで若い方々のこのような行動を高く評価し応援したいと考えております。

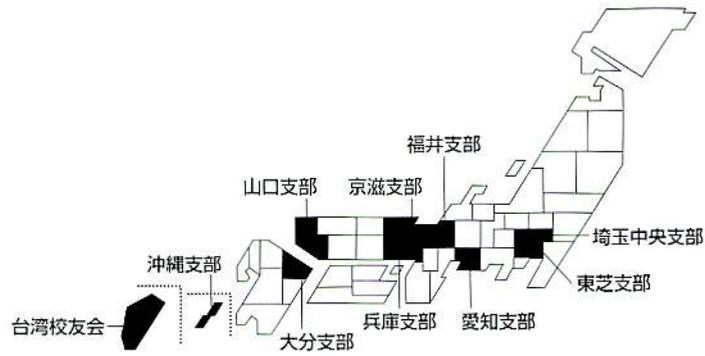
毎年とは行きませんが講演者を併設し先生をお招きしたり、会員の中から講師をお願いし専門分野の講演をお願いしたりしてメリハリをつけております。

魅力ある支部総会づくりに何処の支部も苦慮なさっていることと思います。何かいいお知恵がございましたら是非ご教示いただきたいと思います。

山口県支部

溝上俊治 山口県支部・支部長

山口県支部は昭和38年4月全国57支部中28番目に結成されました。当支部はかつて重村伝平・修二・明氏と3代の校友で評判となり、中退者編入の規則を作ることで吉永浩三氏を名誉会員にすることが出来ました。現在の支部会員は名簿によると144名です。実質在県は約110名位でその半数が応答可能な数と考えています。平成12～16年15カ



年の卒業生は11名ですがその内7名は関東で勤務中、他の4名も他県に在住中です。全人口150万人25位の県ですが、周南・宇部・下関・萩の4市を毎年順送りに変えて年1回の支部総会を開催します。18年は下関で来賓として杉山副会長を迎え21名で行いました。又幹事会を総会に先立ち開催し年の行事を決めますが、最近では周南市の校友経営の店で地区新年会を兼ねて開催し、ふぐ料理で打ち上げするのを楽しみにしています。懇親ゴルフ会も不定期ですが、年1回を2～3組で行います。昨年は校友の1人がオーナーの美祿CCで2組のプレーを楽しみました。

今年は団塊世代退職の最初の年で少子高齢社会を如実に感じる事となります。山口県は高齢人口が全国6位で平均16.7%に対し21.6%、また15歳以下の若年人口は43位と急速に高齢化が進む県です。中小企業では新卒採用に苦しむ所が多く、県ではUJIターンの呼びかけを行っています。これからの日本を考えると第1に定年延長10年、2に就労可能年齢の女子1900万人の活用、3 移民受け入れと言われていますが、3より先に我々OB人材の完全活用を優先させるのが医療費の削減にも繋がり良い方法と思います。全国民が健康且生涯現役でPPKの目標で頑張ることが安倍さんの美しい日本に通じます。学園も定員枠過剰の時代、学生獲得競争は1層激しくなりましようが良い後輩を沢山供給して頂きたいと学園の1層の発展を祈念しています。



大分県支部

渡邊光治 大分県支部・副支部長

平成18年度工学院大学校友会大分県支部総会を京都別府で下記の通り開催しました。

日 時：平成18年11月11日(土)
(1部1泊2日)

18：30～20：30

場 所：別府温泉 つるみ荘

会次第：進行：田口正美

1. 支部長挨拶 本田 信之
(昭和41年機械工学科卒)
2. 校友会本部より学園近況報告
初田 亨 (建築学科教授)
3. 議事

①事業報告：田口

②会計報告：田口

③その他：

参加者自己紹介 (12名)

記念写真撮影

平成19年度大分支部総会

(平成19年11月10日(土))

18:30～別府つるみ荘)

私(渡邊光治 昭和43年電気工学科卒)は、大分県支部長より推薦され、母校のアドミッションセンター所長付として、又OBとして、県内の高校を訪問して工学院大学の受験生を募集してきました。支部総会においても報告しましたが、高校生の都会離れ、理工離れが大きく、母校の受験生募集は非常に困難を来しております。どうか同窓生の皆さん、常日頃より母校のPR、応援よろしくおねがいします。

るいは営業所等が各地に分散しており、比較的に皆が参加しやすいようにするためです。また、場所を本学新宿校舎にしています。これも各参加者が本学担当教授等の方々に交流を図る機会をできる限り与えたかったからです。本支部総会の参加メンバーは東芝現社員(約300名)を中心に次年度東芝入社予定者、東芝OBに加え、東芝OBの本学教授の方々により構成されております。この総会は参加者の親睦を図ることを目的としておりますが東芝若年職員がそれぞれの職場で直面する種々の問題を他の参加者と自由に交換し、仕事上、学問、人間関係、趣味等の解決や方針等をつかんでもらうようにしたかったからです。さらに、東芝入社予定者には東芝の空気を早く味わってもらい会社に入った場合に戸惑うことがないようにするとともに入社予定者の周りにはたくさんの本学OBがいることを知っていただきたかったからです。このような支部総会を通し、本学OBが東芝で活躍し立派な社会人が多数生まれれば良いと思っています。

[広報部より]

今回も各支部からたくさんの支部便りをいただきましたが、以下の支部については誌面の都合で掲載することができませんでした。校友会ホームページ (<http://www.kogakuin.or.jp>)の方へ順次掲載しますので是非ご覧ください。

[青森・宮城・東京・西東京・湘南・体育会連合OB会など]

東芝支部

小暮 勝 東芝支部・支部長

東芝支部総会は毎年、東芝創立記念日(7月1日)の前後の金曜日に開催するようにしております。この時期に開催するのは工場や研究所あ

機械工学科教授退任にあたって



工学院大学機械工学科特別専任教授 丸山一男

2000年4月1日工学院大学特別専任教授に就任して以来瞬く間に7年が過ぎ2007年3月末日に退職することとなりました。この間それまで勤務していた国立大学の東京工業大学とは異なり様々な経験を致しました。本学に着任して感じたことの一つは教員当たりの授業のコマ数が非常に多いということが第1印象でありました。第2は授業のための情報設備がすばらしく整備されていることです。外部からインターネットで本学のホームページを見ると接続が高速ですばらしい設備が整っているなど感じましたが、それ以上にすばらしい情報機器が教室に揃っており、授業をするのに大変役に立ちました。最初はパワーポイントでプロジェクトの教材を作成するのに苦労しました。第3は新宿校舎ビルの建物そのものとその清掃のすばらしいことです。

さて、最初の年はどういうわけかノルマ以上の授業を持たされてとても大変でした。特別専任教授は12単位分で良いのに学部で14単位分も授業を持ち、大学院の授業もやったので教材作りの準備で全く大変でした。2000年度前期は八王子校舎で火曜日の朝1時限に国際工学コースの2年生に「微分方程式論」、新宿校舎では月曜日午後1時に大学院修士1年生に「精密機構学特論」、木曜日夜6時から第2部の機械工学科3年生に「応用材料力学」、7時40分から2、3年生に「計測工学」、後期は木曜日早朝1時限に八王子校舎でまた国際工学コースの2年生に「機構学」、新宿校舎では第2部機械工学科の2年生に「応用材料力学」、後期後半の土曜日は3年生に「機械工学セミナー」、月曜日午後1時に大学院修士1年生に「精密機構学特論」、その他卒論論文指導、修士論文指導と全く大変な1年目でありました。

前職は大学付属の研究所勤務であったため学部・大学院の授業は1週間に1コマ程度で後は研究に関連した外国文献の輪講と学部卒論指導や大学院修論・博士論文指導に大半の時間を使い研究に専念できたことと比較すると大きな違いが生じ私学の教員

は大変だと驚くと同時に感心致しました。また、以前は緑に囲まれた長津田の田舎に研究所があったため、八王子校舎に授業に行き授業の後食堂で食事をしながら緑の木々や桜の花など眺めると大変心休まる思いがしました。新宿校舎は都心で開催される専門分野に関連した会議に出席するのに便利であったが、新宿駅から地下道を通って校舎に通うのはモグラのようであまり気分は晴れない気が最初のころは特にしました。

それでも、新宿校舎には大学に入ったばかりのPro/Engineerなる3次元CADがあり夏休みにはMSC社の初心者講習会を受けて一通り使えるようになったり、非線形有限要素法解析ソフトANSYSを試用したり新しいことにいろいろ挑戦出来大変収穫もあった。

7年間に卒論・修論で行った研究は「Webベース工業規格ネットワークシステムの開発」「Webベースねじ締結体の強度設計システムの開発」「小ねじ用締付け試験機の開発」などであるが、工学院大学における思い出深い仕事として「弾・塑性域締結ねじ性能試験機の実用化」が挙げられます。これは小生の半生の研究で培った機械のハードウェア、電気ハードウェア・ソフトウェア、システム化の総合技術の結晶で、大阪の測定機会社株マルイが国有特許実施契約を結び製造販売することとなり、これが2001年2月に完成し発注元の株田中に納入されたことである。その後2号機も2006年初めに製造販売され、STロックボルトなどの製品開発に使用されている。2号機製造に際してはPCの高性能化に伴い見栄えのする試験機制御及び計測プログラムも開発された。

ねじの締付けに関する研究は本学においても続け、この研究では対象をプラスチック用小ねじに向けることとした。プラスチック用小ねじは呼び径も5mm程度と細く相手材はプラスチックのため強度が弱いので、締付けトルクや締付け軸力が前述の試験

機に比較して1/20程度であるため、ロードセルの新たな設計・試作を必要とした。そのために新しく写真に示すロードセルを2006年度の卒業研究で設計・試作したところ、思いのほか良い性能のロードセルを開発出来た。

また、情報センターには共用できるMSC社の非線形有限要素法解析ソフトMARC2003R2が入っているので、ヘキサロピラ頭のねじブランクを圧造によって塑性変形させるのに使用するパンチの応力解析やねじブランクの塑性変形を解析する研究なども進めることが出来た。このソフトは最初は八王子校舎、最近では新宿の情報センターのアプリケーションコンピュータに入っておりネットワークを通じて学内のみならず、自宅のパソコンからもインターネットを通じて使用できるので大変重宝した。

海外出張は7年間の間に2回行う機会を得た。1つはドイツのマゲデブルク大学とねじ関連会社のEJOT社視察であった。マゲデブルク大学には1983年にベルリン工業大学に文部省在外研究員として留学して以来の友人が機械設計部門の教授をしているので、研究室を見学したり、小生の研究紹介講演などしたことが思い出される。もう1つの海外出張は中国北京である。中国には1986年の広州でのISO/TC2会議、1993年の北京航空航天大学での第1回日中ねじ締結工学シンポジウム、1994年の杭州大学での第2回日中ねじ締結工学シンポジウムなどで3回訪問したが、今回は4回目の訪問である。北京には2006年10月ISO/TC1（ねじ基本）の本会議に日本代表として出席するためであった。

主な議題は「ISO/TC1のBusiness Plan」の決定、「ミニチュアねじ」の規格原案審議、「ねじ用語」の改正案審議などであった。ISO/TC1はここ約10年間ほとんど活動を停止していた後で、久しぶりに開催された会議であるが、英国、フランス、スウェーデン、日本、中国の5カ国代表が参加しただけで低調であった。ISO/TC1は「ねじ基本」を対象として

おりねじに関する基本的規格は既に完成されているためであろう。また、この機会に中国上海に進出した日本のねじ会社も訪問することが出来大変有益であった。

とりとめのないことをいろいろ書かせて頂いたが、紙面も終わりに近づきました。最後に本学と卒業生の皆様の益々の発展と健康を祈念致します。小生も非常勤講師としてしばらく勤務させていただきますが、今後どうぞよろしくお願いたします。



小ねじ締付け試験機用ロードセル

中国オルドス高原の旅



工学院大学環境化学工学科教授 定方正毅

はじめに

環境化学工学科の定方研究室では、現在中国の環境問題の解決に向けた研究を行っている。この研究は私が東大に在籍していた時から始めて、これまで20年近く続けてきている。幸い工学院でもこの研究に興味を示してくれる学生が毎年何人かいて、今年も3人の元気な学生が、この研究に取り組んでいる。

私は、常日頃学生達に本当の環境の研究をやるのだったら、環境の現場に行く必要があると言っている。昨年も、学生達に環境の現場を知ってもらうために、夏休みを利用して、学生3人および東大時代の私の弟子達を連れて砂漠化が進む中国オルドス高原の調査旅行を行ったので、その時のことを日記風に書くことにする。

1. オルドス高原

オルドス高原は、内モンゴルの中の三方を黄河に囲まれた面積8.7万km²の高原地帯であり、約150万人の人達が住んでいる。(図)



図 オルドス高原

オルドス高原は、チンギスハーンが活躍した頃は、草原の中に何本もの河川が流れ、数多くの湖沼が点在する豊かで美しい土地であったが、その後、過耕作、過放牧、工業化など、主として人為的な要因に

より草原が退化し、砂漠化が急速に進んだ。現在、中国の砂漠化最前線は、オルドス高原を西から東に向かって進行しつつある。また、オルドス高原は最近しばしば日本に飛来する黄砂の発生源地域の一つにもなっている。一方、高原の周辺を流れる黄河も近年、水量が激減しており、黄河の下流地域ではしばしば断流が生じる。その結果、黄河の下流地域の農地に水が充分供給されなくなり農地の荒廃、不毛化、アルカリ土壌化が進んでいる。

このように、中国オルドスの高原およびその周辺は中国の代表的な環境問題である砂漠化、および水資源の枯渇化の中心的地域であり、この地域の砂漠化を防止し、オルドス高原をチンギスハーンの時代の緑の草原に戻すことが出来るならば、中国環境問題はやがて解決の方向に向かうであろう事が予想される。

2. オルドス旅行日記

8月10日(木) 天気：曇り

朝7時45分烏海市のホテルを立ち、今回の旅行の一番の目的地であるオルドス市のオトクキ(オルドス高原の中心地)に向かう。バスがオルドス高原に入ると、付近の景観は一変し、土と石が果てしなく続く土漠の世界になる。バスはオルドスに入って2時間位経過すると、荒野の表面の一部がうっすらと緑がかって来た。やがて緑の面積が増大していき、ついに緑一色の大草原地帯に到着した。バスを降りて地平線のかなたまで何らさえぎるもののない大草原に立つと日頃の煩わしい事もすべて忘れ、世界を我が物にしたような壮大な気持ちになった。このような光景は、日本では絶対見られないものであり、あらためて中国の国土の大きさを感じた。

学生達も、いつも見慣れた八王子キャンパスの運動場に比べて内モンゴル草原の桁違いの広さに一瞬驚いた様子だったが、その後すぐ初めて見る地平線目指して全速力で走り出したのは面白かった。

次に、本日の最終目的地である坂本植林地のあるウランダワ砂漠スージーガチャ集落に向かった。坂本植林地とは、今回の調査旅行のガイド役坂本氏が3年前当地で植林事業の第一歩を印したところで、その場所には「中日友好記念林」の石碑が建てられている。

目的の場所は小高い丘の上にあり、そこからはウランダワ砂漠を一望することができた。丘の上には、二年前に植えたポプラが2mほどに育っており、水も肥料もやらずただ植えただけでここまで育ったことを知り、ポプラという木のたくましさ、この土壌が予想外に栄養分と水分を含んでいることを知った。

8月12日(土) 天気：朝方小雨、のち曇り

朝8時にホテルを出発して銀川（ぎんせん）土壤改良試験区に向かう。車中、銀川は秦の始皇帝の時代から灌漑農業地帯で、その結果アルカリ土壌が広がってしまった事、銀川の名前はアルカリ土壌の銀白色に由来するものであることを知った。

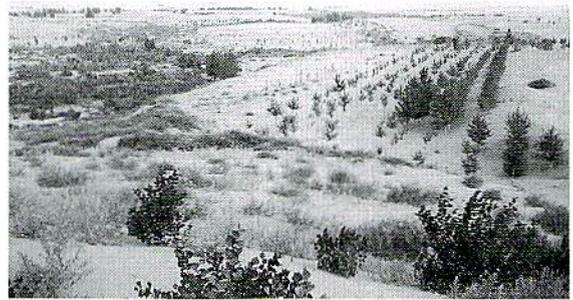
一時間半ほどで試験区に到着。寧夏大学の孫教授が我々を迎えてくれる。この試験区は寧夏大学の実験農場で広さは約60ヘクタールである。我々がここを訪れたのは、ここで中国の複数の大学や研究機関が参加して2005年から「脱硫石膏によるアルカリ土壌改良」のフィールド実験が行われているからだ。

砂漠化の一步手前のアルカリ土壌の改良のために脱硫装置から排出される脱硫石膏を用いる技術は、小生が電中研の新田義一氏および東大農学部（当時）の松本聡氏と一緒に発明した技術である。

孫教授自ら我々を案内して下さり、実験結果をこと細かに説明して下さい。その結果我々の方法を適用することによって、それまで雑草すら生えなかった土地に水稲が育つようになったこと、およびこれまで単に植林しただけでは育たなかった漢方薬や健康食品の原料になるクコの木や胡揚林が育つこと

が分かった。

私はこの結果を見て、我々が発明し10年以上かけて育てた技術が中国の先生方のご協力により、ようやく中国で花が開きそうになったこと、そしてやがてはこの技術が中国の環境問題の解決に役立つであろうと考えて、大変幸せな気持ちになることができた。



ウランダワ砂漠（オールドス高原）

おわりに

今回の旅行はわずか7日間ではあったが今後中国環境の研究を進める上で、大変役に立つ知見を得ることができた。

最後に、この旅行に参加した3人の学生、K₁君、K₂君、O君は、その後人が変わったように卒業研究、修士研究に打ち込むようになり、研究室に他の学生達に良い刺激を与えてくれている。

参考文献

- 1) 山本英寿、酒井裕司：「トヨタ環境活動助成プログラム2004：内モンゴルアルカリ土壌の改良と乾式脱硫プロセスの普及」中間報告（2年次後期分）2007年1月
- 2) 定方正毅：「中国で環境問題にとりくむ」（岩波書店）2000年9月

心のこもったコミュニケーション

S35年度電気工学科電子工学コース卒
元 日本ヒューレット・パッカード株式会社取締役
工学院大学校友会施策諮問委員
経営診断・改善協会理事長
シニア・ビジネスコンサルタント **森 茂樹**



頬を撫でる風も心地良い爽やかな今日この頃です。皆様も、お元気にお過ごしのことと存じます。

寄稿を依頼されましたが、組織の中で活躍をしておられる若い校友の皆さんにフォーカスを合わせて書いてみたいと思います。

釈迦に説法であることを承知の上ですが、「組織の中において心地よく、効率の良いコミュニケーション」を行うための必要な心がけや気配りについて、昔、学んだことや経験の中から、日頃感じていることを、ほんの少し述べてみましょう。

一般的な教育コースとは異なる切り口ですが、ご笑読ください。

ご存じの通り、組織における上司から部下への指示や意見交換、組織間の意見交換、交渉でも「心のこもった、きめ細かいコミュニケーション」が必要になっています。

起死回生の時期などには、特に必要です。

激しい議論時でも、人は誰でも「人からイヤな人だと思われたくない・人に好かれたい」と思いながら議論を戦わせることでしょう。

私も、営業時代やマネジメント上、外国の方達と接触したりする機会が多くなるほど「できれば心地よい、効率の良いコミュニケーションをしたい」と思うようになりました。

そこで、経験的に思うところを、3つほど書いてみます。

一番大切であると思われるのは①笑顔で接することであると思います。

笑顔を見せる人は見せない人よりも、あらゆる場面で、相手の方と良い会話が出来ているように思えます。笑顔は自分の心に余裕や、相手への思いやり等を生み出してくれます。

笑顔には、より豊富な情報が詰まっています。そう思われませんか。

朝起きたら鏡に向かってニッコリ微笑んで見ましょう。そうすると何か幸せな気持ちになるから不思議です。これは、私の営業時代、セールスへ出発する前に心がけていたことでもありました。

私達の動作は、感情によって起こっているように見えます。しかし、感情は、動作を調整することでコントロールできるのです。

明るく元気に振る舞うと、自然に笑顔が出るものです。笑顔が心地よいコミュニケーションを生んでくれます。

次に大切なことは、②相手の方へ誠実な関心を寄せ、聞き手にまわることであると思います。

さあ、会話が始まりました。あなたなら、おしゃべりをするほうが得意ですか、それとも聞く方が得意ですか。聞き手に回らないで次のようなことをしたら、キツク嫌われますね。

- 1) 相手の話を決して長く聞かない。
- 2) 終始自分のことだけをしゃべる。
- 3) 相手が話している時に、何か意見があれば、すぐ相手の話をさえぎる。
- 4) 相手は、こちらより話のペースが遅い。そのペースに乗ってられないとばかりに、話の途中で遠慮無く口を挟む。

特に苦言を呈されているときは、なおさらです。

ジッと我慢をして、相手の方に言いたいことを全て言って頂くと、相手の方の怒りと興奮も次第に収まり、話し合いができるようになります。笑顔も戻ります。

また、自我に陶醉して自分だけが常に正しいのだと思いこんでいる人や、自信を持ち始めている人は要注意です。なぜなら、謙虚さが無くなり聞く耳を持ち難くなる傾向があるからです。

ここでも謙虚さは必要なのです。思わぬところで

足をすくわれることになりかねません。

このことは意外に自分では気づき難いので、やっかいなものです。

易しくないのですが、一歩離れたところから自分を見つめる訓練が必要になります。

言い方、聞き方がこれで良かったのかを、リアルタイムで自分に問いかける心がけが大切なのだと思います。

よく言われるように、良いコミュニケーションをするためには聞き上手になることです。

相手が喜んで答えるような質問をすることです。相手自身のことや、得意としていることを話してもらえるように話しかけるのです。さあ、ドンドン相手の方を引きつけて行きましょう。

次は③相手を信頼し、相手の関心を推察して、それを話題にして話を進めます。

相手の関心を見抜いて話題にすることは、交渉ごと等あらゆる場面で必要なことです。

特にセールスでは、売り込み先の顧客が何に関心を持ち、これから何をしようとしているのかを知ることは実に大切なことです。相手の懐に飛び込むための第一歩です。

その方法として、関心事をあらかじめ徹底的に調べる方法、関心をそれに加えて提案を準備する方法などが必要になるのはご存じの通りです。

相手の関心を見抜きそれを話題にするやり方は、相手の方から情報が引き出せるばかりか、ご自分の欲しい情報も得られることになりますので、結局双方の利益になるのです。

会話を通して、「どのような相手の方とお話しをしても、その度ごとに自分自身の人生が広がる！それが何よりの成果だ」と言う言葉があるほどです。

コミュニケーションほど楽しい反面、易しくないものはありません。誤解や摩擦の原因になったり、

成功への手がかりが得られたり、いろいろです。私も未だに失敗を経験しております。

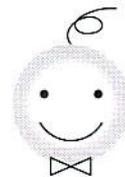
失敗の事例から学び取ることが出来るチャンスは、主観的に相手の方から信頼されなくなったと感じた時や、相手の方への信頼を失った時などに訪れます。

人は、誰でも何らかの点で優れています。相手の良い点・価値を率直に理解し、それを認めることが大切です。

そして認めていることを、うまく分かっていたら、相手の心に飛び込むことが、コミュニケーションを効率よく行う大切な要素となり得えます。

以上、3つの法則？は、キット「気配りのあるキメ細かいコミュニケーション」作りの基本となることでしょう。

長文をご一読いただき、ありがとうございます。



チャレンジ精神と問題意識の継続性



黒澤秀行（昭41年 学部卒・昭43年 院卒）

社会人になってから今日までを省みますと、日本の経済状況・社会の状況は山あり谷ありで、私も設計に係わる者として其の時々々の社会背景の変化に対応しながら歩んだような気がします。その間、様々な活動を通して考えた事、試みた事や諸条件とどのように向き合ってきたかを、ここでは住宅関連・教育施設関連・都市（街づくり）や環境の三つのファクターに分け、特に印象深いものについて述べることにします。

○住宅について（傾斜地特性・地域特性を活かした住宅地づくり）

私の学生時代は東京オリンピックが開催され、続いて大阪万国博に向け活気のある時期でした。他方、人口の都市集中化、住宅不足と「量より質」の過渡期であり、マイホーム確保と周辺環境が一変する程の乱開発気味な宅地造成が目立った時代でもありました。箱状の団地、ひな壇状宅地開発は、一律な無味乾燥な都市景観と都市機能の破綻を引き起す誘引の一つともなったと言えます。

そこで、地域の総合プランに基づき土地の持つ特性を活かし、住宅の生活スタイル・集合住宅に戸建て住宅の持つ空間構成を取り入れ、「限りなく戸建て住宅に近づける」をテーマに「桜台コートビレジ」（1970年）という作品を横浜に創りました。それは、この時代の憧れだった戸建住宅（持ち家）の構造を集合住宅に試みたものです。その後、文化財（古墳群）との共生をテーマに群馬の太田市に「富沢団地」（1992年）を設計しました。低層と中層住棟を旨く配置し、近くを走る国道のランドマーク的景観を創り、階別特性を活かしたプランの提案、古墳との共生を可能にする階段室の工夫で、住棟配置の自由度を計りました。その後、北九州市で老朽化した木造の住宅群と役目を終えた農業用水の親水河川化を計り団地内を蛇行させ、時代に呼応するように新たに問題視する高齢者・障害者への都市機能を

付加させた都市再生事業「竹末団地」（1993年）を完成させました。



竹末団地



桜台コートビレジ

○教育施設とリーディングプロジェクトについて

豊かになった日本は、通信技術の発達で世界の情報がどこに居ても同時に受け取れ、海外旅行も容易になりました。世界史の必須を義務化しても良い程の折に、教科の未履修問題、実情にそぐわない受験優先の産物それ以外にも基礎学力の低下で補習授業を組み入れ、さらに其の施設と教員を大学側が用意する。我々の時代には全く想像もしなかった事が全国の大学で云々されている昨今です。思うのに、教育（施設）の中で我々設計者が、係われる部分は限られてはいるが「ゆとり教育」の前進である各個人の個性（個）を尊重する「個別化教育」の可能性への提案を何校か行ってきた私としては、他人事ではない気がしています。そのようなことを意識して取り組んだのはオープンスクールとコミュニティースクールの設計でした。

「横浜の本町小学校」（1984年）では、教職員からの要望もあり市内の公立校としては最初のオープンスクールでした。当時は補助金対象でなかった多目的ホールの面積上の捻出に四苦八苦した事を今でもはっきり記憶しています。また、地域開放、少子化が問題視され始めた都心の学校のあり方として、「台東区上野小学校」（1991年）と「世田谷区の中町小学校・玉川中学校」（1995年）を計画・設計しました。ここでは、それぞれの地域特性を踏まえ、条件を抽

出して複合化したコミュニティスクールを設計し、当時のモデル校として多くの見学者を案内しました。

その後、学校への不審者の侵入事件は地域へのオープン化から逆にクローズ化の流れに変化し、解放に赤信号がだされ、警備や地域の方々の協力も必要とする傾向ですが、やはり一番はお互いを知る「FACE TO FACE」の大切さを実感したことでした。この事は、これからの街づくりに展開する事も大切なことと感じています。これらの経験を整理し、母校での非常勤講師として、約8年間学生と議論し、私のやってきた問題意識の持ち方とその持続性をあれこれと話し、伝えて来ました。それと共に、私は若い人から多くのエネルギーとヒントを頂いてきました。



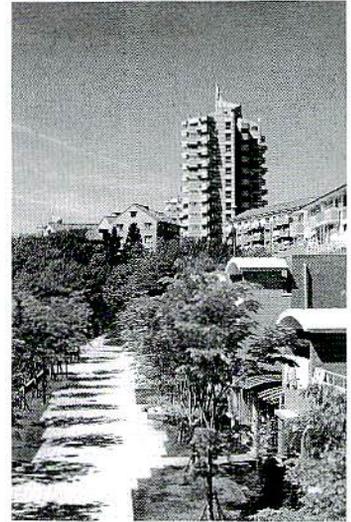
中町小学校・玉川中学校

○都市景観・環境について（自分の住む地域の景観に関心を持つことの重要性）

「ベルコリーヌ南大沢」（1993年）では、当時の住都公団から多摩ニュータウンで複数の建築家（事務所）と条件の基にイメージ・キーワードを共有しながら、秩序と楽しさを内在する団地（まち）を計画的に創り出すために、MA（マスターアーキテクト）方式を使い構築する仕事を持ち込まれました。プロジェクト担当の一員だった私は、これからの街づくりの方法として大いに期待し、弾む心でこのプロジェクトに取り組みました。

MAとは、複数の設計者であるBA（ブロッカーアーキテクト）BAに全体イメージ・キーワードとデザインコードを提示し、BAの個性を尊重しつつ、調整会議で全体イメージとの関係、ブロック間の調整を行う行司的役割と指揮者的役割を合わせ持ちます。この調整会議は、計画の当初から、現場監理に至るまで定期的に設けられ、配置計画、動線、住戸プランの提案、色彩、サインに至るまで調整が行われました。この成果に対して日本都市計画学会賞を受賞しました。ここでの経験は、「さいたま新都心」

（1999年）での景観調整・大型プロジェクトに於ける防災・バリアフリー対策・サイン計画等で大いに役立ちました。これらの作業の中で総合化の必要性、設計時の周辺への配慮・調和（景観設計）の大切さを痛感し、大学院でのカリキュラムへの反映が是非必要と考え、戸建て住宅団地の設計にこの手法の一部を取り入れ大学院生の課題として議論し、私の経験を伝えました。そして、街を美しく、楽しさと活気を持った環境にする為に、街づくりに感心を持つ地域住民を一人でも多く増やすこと。行政・専門家等との連携や、大学や行政がこの種の企画で、底辺の一層の拡大する必要性を強く感じています。



ベルコリーヌ南大沢

○「問題意識の継続的思考」は、現代のキーワード（超多様化した社会を生き抜く）

昨今は、ネット上に情報が溢れ、自己の評価・価値判断の重要性が、益々問われる時代となっています。私達の学生時代とは社会背景が全く別次元となっていますが、好奇心と問題意識を持ち色々な事に挑戦し、素養を豊富にし、価値判断の畑を十分に肥沃に耕しておく時期が学生時代です。現代はちょっと油断したり、間を空けるとその空白はすぐに拡大してしまいます。私は継続性こそ現代のキーワードと確信しています。

一昨年QBS（資質評価方式）で谷川岳連邦の「平標山の家」と環境省所管の「避難小屋」（2006年）の設計者として選定された事も、このチャレンジ精神と問題意識を持ち続けた事への証しと素直に喜び、設計・監理に励んだ作品です。



平標山避難小屋・山の家

専門学校史の編纂



工学院大学専門学校副校長 阿部 洵

明治20年中堅技術者（補助工手）を養成する目的で創立された「工手学校」は幾度かの困難を乗り越えて「工学院」に発展し、昭和22年の新学制の実施に伴い、23年に新制高等学校が、24年には工学院大学が開設された。

その間、資格のつかない各種学校である本科を消滅させるという方針が学園内の空気であった。しかし本科をなくしては、大学設立という大事を抱える学園の維持・運営は到底不可能であった。それに学園内に根強く残る工手学校の伝統に対する執着、郷愁の念が本科を蘇らせたのである。

昭和23年9月に小浪博主事を迎え改革に着手した。昭和24年から改革案をもとに新生専修学校がスタートし、550名の新入生を得て、久方振りに華々しい入学式を挙行了した。



第1回製図展（昭和29年）

誕生したばかりの大学、高等学校が生徒募集に苦しみ、学園経営が四苦八苦の状態の中で、専修学校がこれだけの新入生を得たことは、干天の慈雨ともいべきものがあつた。一時消滅の危機に瀕した専修学校だが、「貧家の孝子」となったのである。

昭和50年7月、学校教育法一部改正法案（専修学校法案）が成立、昭和52年1月工学院大学専門学校

が誕生した。その後、昭和54年4月には夜学校としての永年の伝統を破り、昼間部の開設に踏切り、将来の発展を期するとともに専門学校として一段と整備された。昭和62年度の入学志願者数は昼間部1,576名（入学者562名）、夜間部468名（入学者413名）であり、在校生数は昼間部1,103名、夜間部768名であった。

平成2年からの大学臨時定員増さらに18歳人口の減少等により、志願者の数が減り始め、その間学科の改廃、学科名変更等改革を繰り返したが、入学者数は定員割れの状態になった。平成14年より学園主導による大幅な学科改組に踏切ったが、顕著な効果はみられず、平成17年3月2日の評議員会において18年度からの募集停止が決定され、工手学校以来からの119年の幕を閉じることになった。

専門学校では上記のような歴史の事実を残す目的で、「学園百年史」以降を主体とする「専門学校史」の刊行を決め、編纂委員会を立上げ準備中です。この校友会報が出来上がる頃には「専門学校史」も刊行されていることと思います。



第59回製図・作品展協賛第6回OB作品展



渡辺征三 機械科昭和43年第151回卒業OB展実行委員

今年のOB作品点は写真と絵画のギャラリーとなりました。書上さんの北海道の滝は、時には水が激しく、一滴、一すじが繊細に水の美しさを表わしています。

阿部さんの富士及び紅葉は明暗のトーンを巧みに駆使し、一段と鮮やかさを引き出しております。佐藤さんの奥行きのある深い風景、スナップは祭りの雰囲気が生々しく伝わってきます。佐久間さんは何度も足を運んだ会津の思い出の場所を美しく表現しております。

後藤さんの「のぼり釜」は都美術館での中美展で入選されたもので、フローアを一段と引き立ててくれました。小野さんの静物、コスチュームは油絵をしのぐ深みのある鮮やかさを感じさせてくれました。小倉さんは女性のデリケートな表情を、素早くとらえ、美しく描いています。

中島さんのパピイコレは印刷物と油彩を巧みに組み合わせ、ファンタジックな想いをさせてくれます。渡辺の墨彩画2点は多摩川源流の南、北浅川の美しさを表現しております。

第59回製図・作品展協賛第6回OB展参加作品リスト (2006年度) 2006.11.18(土)~2006.11.19(日)

氏名	卒業年度科別	作品名
書上 正	金属加工科昭和45年155回卒業	写真5点 北海道秋台滝2点
		インクラの滝
		白山・百四大滝
		霜吹の滝
阿部 洵	金属加工科昭和44年153回卒業	写真7点 山梨忍野村2点
		山梨二十曲峠2点
		新潟寺泊港
		山梨山中湖村平野
		京都勝持寺
後藤 忠夫	機械科昭和43年151回卒業	油彩1点 のぼり釜
佐藤 敏勝	建築科昭和37年139回卒業	写真6点 雨の鎌倉 (鶴が岡八幡宮2006.6.18)
		わたしも見てますライトアップ (東京都庁2006.9.8)
		どれにする? 「1点集中の2人」 (川越祭り2006.10.14)
		(佐渡) 鬼太郎ここにあり (入間市万燈祭り2006.10.21)
		山車の主役狐見参 (川越祭り2006.10.14)
		黄花のうねり (所沢西武ゆり園2006.7.2)
佐久間惣喜	建築科昭和36年137回卒業	写真3点 会津の旅路シリーズ 館岩の水引
		館岩の別荘
		只見川の民家
小倉 将宏	建築科昭和38年142回卒業	水彩7点 人物、婦人
中島 孝明	建築科昭和40年146回卒業	油彩1点 パピイコレ習作
渡辺 征三	機械科昭和43年151回卒業	水彩2点 八王子北浅川
		南浅川
小野 伸雄	建築科昭和39年144回卒業	水彩4点 静物2点
		コスチューム2点



高等学校の「新校舎と卒業生の進路」



工学院大学附属高等学校教頭 **竹花有也**

新校舎での教育活動

念願の新校舎における生活が、18年4月から始まりました。6月17日（土）の落成式では、大勢のお客様をアトリウムで行われた吹奏楽部の演奏で迎えました。新校舎ならではの企画は、ご来校の皆様には強い印象と深い感動を与えました。



アトリウムで演奏する吹奏楽部

アトリウムは、教育活動の中心的な役割を果たすようになってきました。9月の夢工祭（文化祭）ではメイン会場として、数々の発表の場にもなりました。また、12月にはノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊先生をお招きして講演会を開催しました。

このようにアトリウムは、本校の教育活動の新たな拠点として多くの可能性を与えてくれます。生徒にとって、アトリウムは様々な思い出の場所となることでしょう。



アトリウムでの小柴昌俊先生の講演会

共学化以降の卒業生の進路

早いもので共学校になって5年経ち、今年の卒業生は共学3期目となりました。したがって、卒業生の進路も男子校の時代と様変わりしています。

17年度の卒業生の進路を中心に、共学以降をまとめてみました。図1をご覧いただければおわかりの

ように、本校は現役で8割を超える生徒が4年制大学へ進学しております。これは大学の附属校であるから当然と言えますが、共学以降工学院大学への進学は減少傾向にあり45%と50%を切っております。

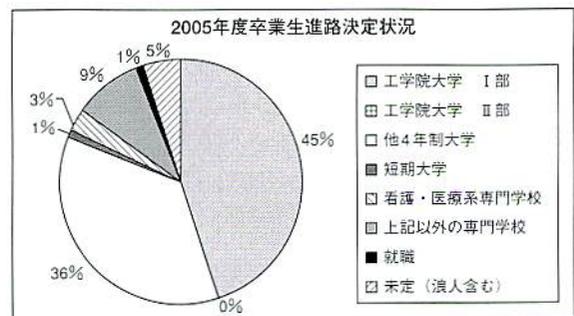


図1 平成17年度卒業生進路決定状況

その反面、他大学への進学は増加しており36%と40%近くまで達しております。近いうちに逆転するのではとの、見方も出ております。

この傾向は女子生徒で見ると、図2のように55%が他4年制大学へ進学と、その傾向が顕著に表われております。

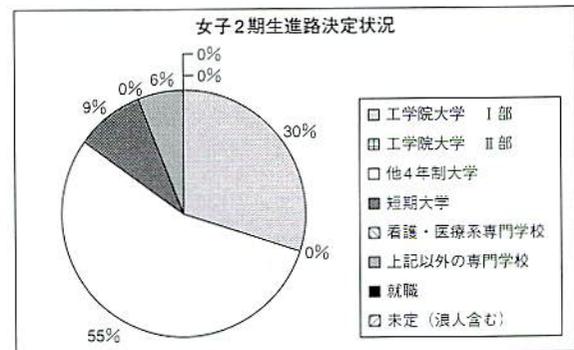


図2 女子2期生の進路決定状況

1月26日現在の18年度の卒業生の進路状況は、次のようです。工学院大学以外の主な進学先は、東京学芸大学・首都大学東京・電気通信大学の国立を始め、中央大学・北里大学・國學院大学・東京農業大学・日本大学・武蔵工業大学・東京経済大学・東京医療保健大学・日本獣医生命科学大学・横浜薬科大学・成蹊大学など36大学に渡っております。

以上

中学校レポート 10周年記念年、無事終了

工学院大学附属中学校教頭 橋本 勉



今年度は、中学校開設10周年を記念する1年間でした。秋に記念式典を行ない、冬には、小柴昌俊先生をお招きして記念講演会を行ないました。

以前、校友会報vol.126で右肩あがりの姿を記させていただきましたが、その後も中学校は着実に歩んでいます。これも皆様の支えのおかげであり、心から感謝しています。

さて数年前、中学校保護者の会（PTAに相当する団体）会長が、「工学院中学校が今後発展して行く学校であって欲しい。そして、“10周年”“20周年”と周年行事の行なえる学校であって欲しい」という発言をされました。当時は、中学校の応募状況その他いろいろな面で、学校運営は大変に厳しい時代でした。

でもそんな時でも本校の良さを感じてくれて、本校を選択し通ってくれた（通わせてくれた）人たちがいたから、そしてその生徒たちを大事に育ててくれた先生方がいたから、耐えることができ、その上良い評判が広がっていったのです。

現在、大学受験世代の人口が少なくなり、大学側から見ると大変な時代に突入しているのですが、その世代が中1だったのが6年前なのです。

10周年記念式典

式典は、9月17日(日)に高校アトリウムで行なわれました。式典のコンセプトは「この10年、本校に在学してくれた全ての生徒とその保護者に感謝すること」でした。招待者は卒業生とその保護者であり、主賓も同じです。卒業生たちが新しくなった母校に集まって盛り上がり、自信にあふれたスピーチをしてくれました。

そしてこの日のもう一つのねらいは、「在校生たちに卒業生の姿を刷り込む」ことでした。将来もしも「20周年」を祝える日が来たら、その時には、今の在校生はあちら側になります。その日の姿を今はまだイメージできなくても、意識の底にはきっと刷り込まれたと思います。そういう意味では、この10

周年を体験できた、中1～高3までの在校生はラッキーだったのではないのでしょうか。

小柴昌俊先生講演会

12月には、小柴先生に来ていただき、全校生徒を対象にお話をさせていただきました。毎日・読売両新聞の記事になり、八王子テレメディア（ケーブルテレビ局）のニュースでも流されました。

講演の最後に生徒からメッセージと花束が贈られたのですが、小柴先生は本当にこやかでした。

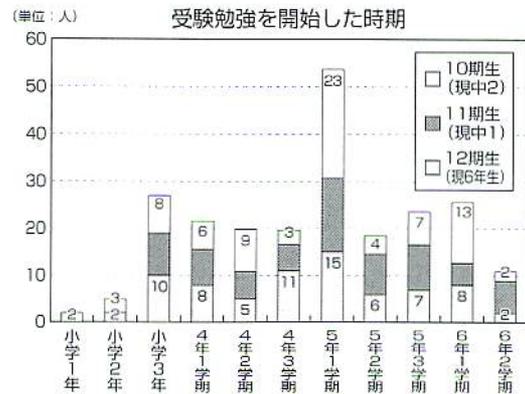
次の10年に向けて

母校が発展して行くことは大変に誇らしいことです。今までの卒業生と現在の在校生、そして全ての保護者の期待にそえるよう今後も発展して行きたいものです。しかし、公立の中高一貫校ができ、生徒募集の環境は厳しくなります。でも、スタッフみんなで頑張っていきたいと思います。

<付録> 中学受験、いつから準備した？

（本校入学生徒へのアンケート結果から）

下のグラフに示されているように、中高一貫校に入るために早いうちから勉強をする時代になっています。本校入学生生の平均準備期間は、一昨年在学が21ヶ月、昨年在学が20ヶ月で、今度入学してくる生徒は、24ヶ月です。こんなところにも最近の中学受験の傾向が見て取れそうです。



校友会事務局からのお知らせ

◆維持協力会費納入のお願い

在学中に納入していただいている終身会費だけでは校友会の運営が難しくなっている状況にあります。社団法人格を有している工学院大学校友会としては、学園に対して今まで以上に援助して行く必要があります。同封の振込用紙により皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

◆E-mailアドレスをお持ちの方は是非ご協力を！

平成14年3月から会員に対し、E-mailによる校友情報ネット発信態勢の構築に取り掛かっております。定期的に学園や校友会の情報を発信しておりますので、E-mailアドレスをお持ちの方（携帯アドレスは不可）は、同封の総会出席返信はがきには是非ご記入の上、投函下さいますようお願いいたします。なお、既に受信している方は、登録の必要はありません。

●工学院大学校友会STEC VISAカードのご案内

工学院大学校友会STEC VISAカードは、

1. 社工学院大学校友会会員・在学生ならびに教職員の方と家族だけがお持ちいただけるエンブレムカードです。（工学院大学校友会と三井住友カード㈱が提携発行する公認カード）
2. 会員の方がこのカードをお使いになると、その利用金額に応じた提携手数料が還元金としてカード会社により校友会に入金され、学園援助費、学生・生徒活動の援助費の一部に充当されます。なお、カード使用に当たっては通常のクレジットカードと同じ手数料以外は、一切負担になることはありませんので、申し込みご希望の方は、同封の総会委任状ハガキの連絡欄に○印をつけてご返送下さい。

上記の件でのお問い合わせは、校友会事務局 TEL 03-3342-2064・03-3340-1649

FAX 03-3342-2035

E-mail jim2@kogakuin.or.jp

■平成19年度 支部総会開催予定表（平成19年3月31日現在）

開催日時	支部名称	開催場所
4月8日(日) 11:30	山口県支部	萩小町
4月14日(土) 18:00	長野県支部	東急イン
4月21日(土) 18:00	福井県支部	越前市
5月18日(金) 18:30	鹿児島県支部	パレスイン鹿児島
5月20日(日) 14:00	栃木県支部	ホテルニューイタヤ
6月2日(土) 11:00	愛知県支部	ルブラ玉山
6月3日(日) 14:00	広島県支部	まする
6月3日(日) 13:30	埼玉県中央支部	with you さいたま
6月9日(土) 13:00	西東京支部	八王子クリエイティブ・ホール
6月15日(金) 18:30	山梨県支部	ベルクラシック甲府
6月17日(日) 12:30	千葉県支部	工学院大学 28F
6月17日(日) 15:00	体育会連合OB会支部	工学院大学
6月23日(土) 18:30	宮崎県支部	未定
6月23日(土) 18:00	高知県支部	未定
6月24日(日) 16:00	埼玉県西支部	川越プリンスホテル
6月30日(土) 18:00	山形県支部	未定
7月6日(金) 18:00	東芝支部	工学院大学
7月7日(土) 11:30	川崎支部	岩本桜

開催日時	支部名称	開催場所
7月7日(土) 11:30	横浜支部	岩本桜
〃	湘南支部	〃
〃	相模支部	〃
〃	西湘支部	〃
7月21日(土) 18:00	新宿支部	工学院大学 28F
7月21日(土) 15:00	中野支部	工学院大学 ファカルティ・クラブ
9月8日(土) 18:00	北海道支部	未定
9月9日(日) 14:00	静岡県支部	浜松
9月29日(土) 14:00	佐賀県支部	はがくれ荘
10月	青森県支部	未定
10月14日(日) 13:00	東京支部	工学院大学 28F
10月27日(土) 13:00	新潟県支部	響
11月10日(土) 18:00	大分県支部	別府つるみ荘
11月12日(月) 18:30	日本電気支部	NECクラブ
11月17日(土) 16:00	福島県支部	ホテル光雲閣
11月21日(水) 19:00	沖縄県支部	エッカホテル
12月8日(土) 17:30	京滋支部	きよみず

第5号議案 社団法人工学院大学校友会定款施行細則改定（案）

現 行	改 定 案
<p>(各同窓会)</p> <p>第2条 各同窓会は学校法人工学院大学が設置する 工手学校以来の各学校の卒業生および在籍したもので、出身学校または出身科別に組織される。</p> <p>2. 各同窓会はこの法人の下部機構としてそれぞれ自主的に運営される。</p> <p>3. 各同窓会とは次に掲げるものとする。</p> <p>工学院大学 機械工学同窓会 工学院大学 応 化 会 工学院大学 電気電子情報同窓会 工学院大学 建築系学科同窓会 工学院大学 附属高等学校同窓会 工学院大学 専門学校同窓会</p>	<p>3. 各同窓会とは次に掲げるものとする。</p> <p>工学院大学 <u>機械系同窓会</u> 工学院大学 応 化 会 工学院大学 <u>電気電子情報同窓会</u> 工学院大学 <u>建築系学科同窓会</u> 工学院大学 <u>附属高等学校同窓会</u> 工学院大学 <u>専門学校同窓会</u></p>
<p>(会 費)</p> <p>第4条 準会員は卒業時まで正会員の会費を一 時に15,000円以上納めたものとする。</p>	<p>(会 費)</p> <p>第4条 準会員は卒業時まで正会員の会費を 時に<u>20,000円</u>以上納めたものとする。</p>
<p>(評議員および役員の選出)</p> <p>第5条 評議員は各同窓会より70人に1人の割合 で200人以上を選出する。ただし各同窓会より選出される評議員数は20人以上とする。</p> <p>2. 理事は各同窓会の評議員数に比例し40人以上、50人以内を評議員会で選出する。</p> <p>3. 常任理事は前項の選出理事の内から、各同窓会毎に1人を理事会にて選出する。</p> <p>4. 副会長は各同窓会の会長若しくは副会長より1人を理事会にて選出する。</p> <p>5. 会長は常任理事会にて推薦し理事会の承認を受ける。</p>	<p>(評議員および役員の選出)</p> <p>第5条 <u>評議員は各同窓会より30人を選出する。</u></p> <p>2. <u>理事は各同窓会から8人を選出する。</u></p> <p>3. <u>会長は、理事会において選出する。</u></p> <p>4. <u>会長は、副会長を2人～4人指名し、理事会の承認を得る。ただし、2人については、理事からの指名とし、残りについては、会員から指名する。なお、会員から選出された副会長は、所属同窓会の理事に追加する。</u></p> <p>5. <u>常任理事（部長、副部長）は、会長が、前項の選出理事から8人を指名し、理事会の承認を得る。ただし、各同窓会から1名以上を指名することとする。</u></p>

<p>(常任理事会)</p> <p>第6条 常任理事会は会長、副会長、常任理事をもって構成し、会長がこれを統括する。</p> <p>(役員を選出時期)</p> <p>第10条 次期副会長、次期常任理事の選出、および次期会長の承認は、現役員の任期満了前に、前条によって選出された次期理事集会によって行なわれる。</p> <p>(業務分掌の機構)</p> <p>第11条 この法人の業務を処理するため理事会に次の部をおく。 総務、財務、広報、企画、事業、組織</p>	<p>6. <u>会長が選出された同窓会は、理事1人を追加し、評議員会の承認を得る。</u></p> <p>7. <u>評議員および役員の人れ替え、補充については、理事会で承認を得た後、評議員会において報告する。</u></p> <p>8. 1項、2項、5項について理事会で承認した場合は、この限りでない。</p> <p>(常任理事会)</p> <p>第6条 常任理事会は会長、副会長、常任理事(部長、副部長)をもって構成し、会長がこれを統括する。</p> <p>(次期役員を選出時期)</p> <p>第10条 <u>次期会長、次期副会長、次期常任理事(部長、副部長)の選出は、現役員の任期満了前に、前条によって選出された次期理事集会によって行なわれる。</u></p> <p>(業務分掌の機構)</p> <p>第11条 この法人の業務を処理するため理事会に<u>次の5部を置く。</u> 総務、財務、企画・広報、組織・事業、<u>学園連携</u></p> <p>付 則</p> <p>5. 平成19年5月27日次の変更を行なって施行する。 第2条3項 同窓会名の一部変更 第4条1項 会費の変更 第5条 評議員および役員を選出方法の変更 第6条 常任理事会の構成メンバーの変更 第10条 次期役員選出時期の役員名を変更 第11条 業務分掌の機構の変更</p>
---	--

■第6号議案 附属高等学校同窓会前会長吉岡暁一会員の除名処分の特

校友会定款第10条3項「この法人の名誉を傷つけ、またはこの法人の目的に反する行為のあったとき」により、除名処分とする。

なお、本件に関しては、平成18年10月13日開催の第9回常任理事会、平成18年12月15日開催の第4回理事会にて審議し、承認済みである。

「第62回評議員会・第51回総会」開催のお知らせ

1. 日時 平成19年5月27日(日) 12:30～
2. 場所 新宿キャンパス3階「アーバンテックホール」
3. 議案
 - 第1号議案 平成18年度事業報告承認の件
 - 第2号議案 平成18年度収支決算ならびに財産目録承認の件 監査報告
 - 第3号議案 平成19年度事業計画(案)承認の件
 - 第4号議案 平成19年度収支予算(案)承認の件
 - 第5号議案 校友会定款施行細則改定(案)承認の件
 - 第6号議案 吉岡陽一会員除名処分承認の件

(注1) 本誌同封ハガキにより、折り返し出欠についてご回答下さい。ハガキは50円切手をお貼り下さい。
 (注2) 定款施行細則により、当該議事について意思表示のない場合は同意の意思があったと見なして出席者に加えることが出来ることになっておりますのでこの点予めご了承下さい。
 (注3) 総会・評議員会で意見のある方は事前に事務局までFAX03-3342-2035にてご意見をお寄せ下さい。

「総会当日のプログラム」

◆評議員会・総会

- 受付●12:00～
- 開会●12:30
- 議事●13:00～

◆学園近況報告・表彰式等

- 学園近況報告●15:00～
- 学生・生徒の表彰状贈呈●15:15～

◆講演会

- 記念講演●15:30～
- 演題●「創立125周年に向けて」
- 講演者●学校法人工学院大学理事長
大橋 秀雄 氏



なお、講演会終了後中層棟7階食堂にて16:40から懇親会を開催いたします。

■学生・生徒の表彰報告 (平成18年度総会において)

【大学院】

専攻	氏名
機械工学2年	土川 陽平
化学応用学2年	加藤 千尋
電気・電子工学1年	高橋 康浩
情報学1年	草島 智道
建築学2年	新保 優樹

【大学】

専攻	氏名
第一部 機械工学科2年	脇坂 英佑
第一部 機械システム工学科2年	内田 知宏
第一部 国際基礎工学科2年	中野 彬
第二部 機械システムデザイン学科2年	伊藤 真人
第一部 環境化学工学科2年	戸所 なつみ
第一部 マテリアル科学科2年	永井 昭兆
第二部 化学応用デザイン学科2年	八木田 祐介
第一部 電気工学科3年	井上 敦史
第一部 電子工学科2年	中館 威
第一部 情報工学科2年	後藤 真一
第二部 電気電子情報工学科電気工学コース2年	板谷 充敏
第一部 建築学科建築学コース2年	鈴木 悠太
第一部 建築学科環境建築コース2年	丸山 希恵
第一部 建築都市デザイン学科2年	雨川 美津季
第二部 建築学科2年	今野 忠守

【専門学校】

専攻	氏名
電気技術科2年	武藤 正起
建築科Bクラス2年	久住 征夫
メカニカル3D・CAD科2年	島田 美香
建築科Aクラス2年	白井 奈央
電気技術科2年	富岡 邦夫
建築科2年	宮内 奈央子

【附属高校】

学年	氏名
3年	酒井 俊充
3年	原島 なつみ
2年	湯山 翔太

【附属中学校】

学年	氏名
3年	刈田 祥彦
2年	石川 智子

■平成18年度 貸借対照表 (平成19年3月31日現在)

(単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1. 流動資産	7,756,617	1. 流動負債	81,683,453
2. 固定資産	235,927,124	2. 固定負債	1,952,600
		3. 正味財産 (うち基本金)	160,047,688 (20,000,000)
合計	243,683,741	合計	243,683,741

■平成18年度 財産目録 (平成19年3月31日現在)

(単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産	7,756,617	負債	
1. 現金預貯金	7,756,617	1. 一般預り金	185,453
		2. 在学生会費預り金	81,498,000
		3. 退職給与引当金	1,952,600
固定資産	235,927,124	正味財産	160,047,688
1. 基本財産引当預金	20,000,000	(うち基本金)	(20,000,000)
2. 什器備品	771,724		
3. 電話加入権	102,800		
4. 長期預金	215,052,600		
合計	243,683,741	合計	243,683,741

◇ 受章・受賞 ◇

矢田 清治氏 旭日小受章を受章

平成18年11月3日に島根県支部顧問 矢田清治氏 (昭和34年大学建築学科卒) が受章の榮譽を受けられました。おめでとうございます。

情報学部コンピュータ科学科教授 三好和憲氏が校友会の特別会員に！
定款6条3項により平成18年12月15日開催の第4回理事会で承認された。



三好和憲先生は昭和44年に東大物理学科を卒業され、筑波大講師を経て、昭和62年から本学に勤務されております。現在は情報学部コンピュータ科学科の教授です。平成14～17年に(学)工学院大学の評議員会副議長を務められたことが、(社)工学院大学校友会との関わりを多く持たれる機会になりました。校友の視点と感性を共有され「名誉校友のように扱って頂いて本当に嬉しい。」と公言しておられました。そしてこの度、先生自らのお申し出により、特別会員になって頂くことになりました。先生にはこれまで、校友会運営に関するご助言を頂く等、大変ご協力を頂いて参りました。あらゆる分野で、先生の博識は通常の域を遙かに超えておられます。特に法律にも大変明るく、正義感の強い先生です。

工学院大学情報学部教授 (電気電子情報同窓会会員) 高橋静昭

■平成18年度事業報告

平成18年度において下記の通りの事業活動を行いました。

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学園援助費寄付
学校に在学する学生・生徒の学習活動および 就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生・生徒の研修援助 ①優秀学生の表彰 ②学生の研修活動に対する援助・支援
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会報127号の発行 (64,500部) 2. 会員名簿の更新・ラベルの発行
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会開催 (総会・評議員会開催時) 2. 活動発表会 (学生・OB-新年祝賀会開催時) 3. 各支部単位での見学会の適宜開催
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図る に必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 新年祝賀会・懇親会の開催 2. 総会後の懇親会の開催 3. 各支部の支援および支部組織の活性化 4. 各種同好会活動の支援 5. 各支部総会・懇親会の開催 (41支部 753名) 6. 学園支援プロジェクトチームの発足 7. 第6回ホームカミングデー開催への協力 8. 学園が行なう社会活動への援助・支援
学校の行う就職の斡旋および紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職の支援 2. 大学後援会との懇談会開催

■平成19年度事業計画(案)

平成19年度において下記の通りの事業活動を行います。

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学園援助費寄付
学校に在学する学生・生徒の学習活動および 就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生・生徒の研修援助 ①優秀学生の表彰 ②学生の研修活動に対する援助・支援
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会報128号の発行 2. 会員名簿の更新・住所ラベル等の発行
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会開催 (総会・評議員会開催時) 2. 各支部単位での見学会の適宜開催
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図る に必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 新年祝賀会・懇親会の開催 2. 総会後の懇親会の開催 3. 各支部の支援および支部組織の活性化 4. 各種同好会活動の支援 5. 各支部総会・懇親会の開催 6. 学園支援活動の強化 7. 第7回ホームカミングデー開催への協力 8. 第16回校友会全国大会開催の準備 9. 学園が行なう社会活動への援助・支援
学校が行う就職の斡旋および紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職の支援 2. 後援会との連携強化

平成18年度 収支計算書

平成18年4月1日～平成19年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	決算	差異
①収入の部			
基本財産運用収入	60,000	120,000	△ 60,000
基本財産利息収入	60,000	120,000	△ 60,000
会費収入	36,824,000	38,072,000	△ 1,248,000
会費収入	36,824,000	38,072,000	△ 1,248,000
協力会費収入	3,000,000	3,054,000	△ 54,000
協力会費収入	3,000,000	3,054,000	△ 54,000
寄付金収入	4,020,000	2,895,000	1,125,000
寄付金収入	200,000	185,000	15,000
特別寄付金収入	3,820,000	2,710,000	1,110,000
雑収入	300,000	954,062	△ 654,062
受取利息・配当	100,000	280,475	△ 180,475
雑収入	200,000	673,587	△ 473,587
特定預金取崩収入	14,233,000	14,233,000	0
退職有価取崩収入	4,233,000	4,233,000	0
協力会費取崩収入	10,000,000	10,000,000	0
当期収入合計(A)	58,437,000	59,328,062	△ 891,062
前期繰越収支差額	7,855,000	7,855,363	△ 363
収入合計(B)	66,292,000	67,183,425	△ 891,425
②支出の部			
事業費	23,720,000	21,530,745	2,189,255
学園援助費	2,500,000	1,644,780	855,220
学生生徒活動援助費	2,500,000	2,500,000	0
学生生徒奨励金	1,420,000	1,518,000	△ 98,000
会報印刷費	3,200,000	2,855,000	345,000
発送作業費	480,000	574,309	△ 94,309
郵送費	3,800,000	3,825,120	△ 25,120
印刷費	1,250,000	1,441,828	△ 191,828
協力会費割戻金	600,000	600,000	0
支部出張費	1,800,000	1,519,577	280,423
支部総会会費	250,000	192,500	57,500
支部関係雑費	500,000	8,400	491,600
給与手当	4,070,000	4,023,801	46,199
福利厚生費	150,000	47,565	102,435
全国大会費	500,000	500,000	0
校友ネットワーク構築費	650,000	266,210	383,790
消耗雑費	50,000	13,655	36,345
管理費	14,741,000	13,879,743	861,257
総会費	1,500,000	1,090,984	409,016
本部会議費	1,633,000	1,635,194	△ 2,194
その他会議費	2,528,000	2,199,854	328,146
給与手当	5,200,000	5,005,459	194,541
福利厚生費	650,000	603,139	46,861
旅費・交通費	50,000	30,450	19,550
通信費	950,000	951,051	△ 1,051
振替手数料	100,000	100,370	△ 370
事務用品費	600,000	350,839	249,161
消耗品費	40,000	0	40,000
印刷製本費	80,000	44,275	35,725
修繕費	60,000	6,850	53,150
貸借費	250,000	278,460	△ 28,460
対外費	620,000	1,348,711	△ 728,711
慶弔費	300,000	140,800	159,200
公租公課	30,000	4,000	26,000
雑費	150,000	89,307	60,693
固定資産支出	670,000	648,335	21,665
資産取得支出	670,000	648,335	21,665
その他の支出	18,053,000	18,053,000	0
退職金	4,233,000	4,233,000	0
未収会費徴収不能額	3,820,000	3,820,000	0
貸付金支出	10,000,000	10,000,000	0
予備費	1,000,000	—	1,000,000
当期支出合計(C)	58,184,000	54,111,823	4,072,177
当期収支差額(A)-(C)	253,000	5,216,239	4,963,239
次期繰越収支差額(B)-(C)	8,108,000	13,071,602	4,963,602

※△印は予算比超過となる金額である。なお特別寄付金収入382万円、協力会費取崩収入1,000万円、未収会費徴収不能額支出382万円、貸付金支出1,000万円の増額補正を行った。

平成19年度 収支予算書(案)

平成19年4月1日～平成20年3月31日

(単位：千円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
①収入の部	37,833	58,437	△ 20,604
基本財産利息収入	60	60	0
会費収入(6同窓会)	34,273	36,824	△ 2,551
協力会費収入	3,000	3,000	0
寄付金収入	200	200	0
特別寄付金収入	0	3,820	△ 3,820
雑収入	300	300	0
退職引当取崩収入	0	4,233	△ 4,233
協力会費取崩収入	0	10,000	△ 10,000
当期収入合計	37,833	58,437	△ 20,604
前期繰越収支差額	13,000	7,855	△ 41,208
収入合計	50,833	66,292	△ 61,812
②支出の部	23,963	23,720	243
事業費	2,500	2,500	0
学園援助費	2,500	2,500	0
学生生徒活動援助費	2,500	2,500	0
学生生徒奨励金	1,190	1,420	△ 230
学園連携活動費	800	0	800
会報・出版費	7,498	7,480	18
会報印刷費・取材費	3,218	3,200	18
発送作業費	480	480	0
郵送費	3,800	3,800	0
印刷費	1,680	1,250	430
支部関係費	2,425	3,150	△ 725
協力会費割戻金	900	600	300
支部対策費	1,275	1,800	△ 525
支部総会会費	150	250	△ 100
後援会連携対策費	100	0	100
支部関係雑費	0	500	△ 500
人件費	3,970	4,220	△ 250
給与手当	3,820	4,070	△ 250
福利厚生費	150	150	0
全国大会費	1,000	500	500
校友ネットワーク構築費	300	650	△ 350
消耗雑費	100	50	50
管理費	15,542	32,794	△ 17,252
総会費	1,500	1,500	0
本部会議費	1,630	1,633	△ 3
その他会議費	2,528	2,528	0
人件費	5,850	5,850	0
給与手当	5,200	5,200	0
福利厚生費	650	650	0
旅費交通費	50	50	0
通信費	1,274	950	324
振替手数料	100	100	0
事務用品費	660	600	60
消耗備品費	40	40	0
印刷・製本費	80	80	0
修繕費	60	60	0
貸借費	250	250	0
対外費	1,000	620	380
慶弔費	300	300	0
公租公課	70	30	40
雑費	150	150	0
退職金	0	4,233	△ 4,233
未収会費徴収不能額	0	3,820	△ 3,820
貸付金	0	10,000	△ 10,000
固定資産取得支出	370	670	△ 300
資産取得支出	370	670	△ 300
予備費	1,000	1,000	0
当期支出合計	40,875	58,184	△ 17,309
当期収支差額	△ 3,042	253	△ 3,295

(△印は前年度より減を示す)

緊急維持協力会費（附属高等学校同窓会問題に対する校友会費の補填）納入者一覧

（注）緊急維持協力会費は、平成7年度から18年度までの校友会理事歴任者に協力を呼びかけた結果のH19.3.31現在の寄付の状況です。附属高等学校同窓会問題に対する詳細な報告は、来年度の「校友会報129号」にて行うことにしております。

単位：円

機 械		電 気		専 門	
氏 名	金 額	氏 名	金 額	氏 名	金 額
杉山 助一	60,000	高橋 静昭	60,000	寺島 敬二	60,000
笠原 又一	60,000	横山 修一	60,000	中島 孝明	60,000
小島 孝治	60,000	内山 太	60,000	阿部 洵	60,000
渡辺 征一郎	60,000	中場 十三郎	60,000	梶野 和己	60,000
瀬戸 馨	60,000	軍司 俊彦	60,000	酒井 史生	60,000
小川 文夫	60,000	長嶋 秀世	100,000	岡村 大	60,000
小倉 昭夫	60,000	来住 康弘	60,000	山本 清	60,000
並木 光雄	60,000	鷹野 一朗	60,000	渡辺 征三	60,000
前田 道德	60,000	名取 勝敏	60,000	佐藤 敏勝	60,000
関谷 重彦	60,000	根本 弘道	60,000	平山 徹夫	60,000
横田 仁	60,000	島林 正美	60,000		
小磯 章治	60,000	浅山 行博	60,000		
応 化		建 築		合計：3,040,000	
氏 名	金 額	氏 名	金 額		
本多 恵治	20,000	高木 雅行	60,000		
吉岡 利幸	100,000	笹原 克	60,000		
山田 文昭	60,000	谷口 宗彦	60,000		
木下 忠雄	60,000	柴田 卓次	60,000		
大谷 一夫	60,000	田野辺 幸裕	60,000		
若栗 徳男	60,000	望月 大介	60,000		
小山内 敏	60,000	初田 亨	60,000		
		加藤 隆弘	60,000		
		北澤 興一	60,000		

附属高等学校同窓会は、校友会とは別な取り組みで平成7年度から平成18年度までの常任幹事会メンバーに対して協力を呼びかけ、3月31日までに24人から6,100,000円の寄付が寄せられております。

皆様のご協力に感謝申し上げます。

訃 報

次の方々をご逝去されました。ご生前のご活躍を偲び、謹んでご冥福をお祈り致します。

名誉教授	小倉 清氏 (平成18年4月2日)
校友会元理事	青野 毅氏 (平成18年4月18日)
元学校法人理事・顧問	尾佐竹 洵氏 (平成18年7月17日)
機械システム工学科教授	加藤 隆氏 (平成18年9月4日)
前静岡県支部長	古屋 留三氏 (平成18年9月13日)
名誉教授	松尾 靖秋氏 (平成19年2月12日)

■社団法人工学院大学校友会

「第16回全国大会（沖縄）開催」のお知らせ

校友会会長 長嶋 秀世／沖縄県支部支部長 芳田 眞喜人

全国の校友の皆さん！第16回校友会全国大会は来年の2008年10月11日(土)沖縄県那覇市において開催されます。翌日は、ギネス級的那覇大綱引き大会が催され、一般の人でも参加できます。これから沖縄県支部が開催に向けていろいろ準備を進めますが、来年の沖縄県那覇市での全国大会開催を楽しみにご家族、友人をお誘いの上、多数参加いたしましょう！



校友会役職者・評議員一覧（平成19年度～平成21年度）

会長：長嶋 秀世		副会長：高田 貢 姫野 有文		渡辺 征一郎（部長兼務）		田野辺 幸裕（部長兼務）				
監事：吉岡 利幸		福田 忠彦 楠 昭								
機 械		心 化		電 気 電 子 情 報		建 築		高 校		
渡辺 征一郎	◎	若 栗	徳男	来 住	康 弘	◎	組・事	田野辺 幸裕	◎	企・学
並木 光雄	◎	伊 藤	雄 朗	鳥 林	正 美	◎	組・事	笹原 克	◎	企・学
横田 仁	◎	朝 比	明 浩	久 禮	和 彦	◎	組・事	加藤 隆弘	◎	企・学
関谷 重彦	◇	都 築	登 輝	浅 山	行 博	◇	組・事	北澤 興一	◇	企・学
田村 久義	◇	吉 川	重 克	軍 司	俊 彦	◇	組・事	田中 正裕	◇	企・学
前田 道徳	◇	吉 田	幹 雄	名 取	勝 敏	◇	組・事	大場 光博	◇	企・学
杉山 助一	◇	大 津	幹 太	小 沢	和 重	◇	組・事	谷口 宗彦	◇	企・学
近藤 智	◇	佐 藤	浩 安	鷹 野	一 朗	◇	組・事	後藤 敏明	◇	企・学
瀬戸川 睦	◇	山 中	満 男	佐 藤	昌 志	◇	組・事	初田 亨	◇	企・学
田中 英生	◇	大 谷	一 夫	田 中	久 弥	◇	組・事	高木 雅行	◇	企・学
小磯 章治	◇	若 松	昭 秀	濱 根	洋 人	◇	組・事	斉藤 敏博	◇	企・学
池田 清一	◇	浅 見	利 夫	伊 藤	太 朗	◇	組・事	高橋 昭信	◇	企・学
伊藤 正樹	◇	小 山	重 男	内 田	雅 文	◇	組・事	板谷 真人	◇	企・学
海江 秀夫	◇	笠 松	憲 一	江 袋	林 蔵	◇	組・事	大橋 正一	◇	企・学
小川 文夫	◇	片 岡	回 幸	織 野	善 夫	◇	組・事	小野 里	◇	企・学
笠原 又一	◇	菊 地	興 治	風 間	正 一	◇	組・事	菅 家	◇	企・学
柏原 靖	◇	木 下	忠 雄	玄	光 男	◇	組・事	神前 秀史	◇	企・学
松崎 裕久	◇	佐 藤	修 一	小 口	俊 明	◇	組・事	佐々木 保廣	◇	企・学
鈴木 正則	◇	志 村	豊 滋	藤 本	三 七	◇	組・事	佐藤 卓次	◇	企・学
瀬戸 啓	◇	白 井	精 嗣	木 塚	久 雄	◇	組・事	柴田 真一	◇	企・学
高橋 国夫	◇	鈴 木	祥 嗣	権 塚	泰 隆	◇	組・事	関谷 文一	◇	企・学
平井 政治	◇	武 谷	孝 生	清 水	康 弘	◇	組・事	高城 元	◇	企・学
福泉 正昭	◇	田 中	真 樹	杉 本	静 昭	◇	組・事	高橋 昌安	◇	企・学
増山 昭利	◇	長 島	珍 男	千 田	慧 慶	◇	組・事	武田 正博	◇	企・学
宮坂 進一	◇	本 多	恵 治	高 橋	修 一	◇	組・事	南雲 健二	◇	企・学
和 田	◇	矢 ヶ 崎	和 男	中 畑		◇	組・事	官 沢 好	◇	企・学
渡部 智法	◇	遊 馬	靖 美	福 島		◇	組・事	望 陀 庄	◇	企・学
		和 田	欣 也	横 山				渡 辺		
表中の記号 ◎：部長 ○：副部長 ◇：理事 総：総務部 財：財務部 企・広：企画・広報部 組・事：組織・事業部 学：学園連携部										

広報部からのお知らせ

会員 (OB,OG) が参加できる平成19年度のイベント情報

5月27日	新宿校舎	校友会総会	総会、講演会、懇親会等	無料
8月25、26日	八王子校舎	理科教室	小中学生のお子さんやお孫さんをもつ方は必見!! お子様の夏休みの課題支援! 理工系への啓発!!	無料
11月3日	新宿校舎	ホームカミングデー	ご招待は卒業年ごとになります。 詳細は7月下旬頃から随時学園HPに掲載されます。	無料
20年1月13日	新宿校舎	校友会新年会	講演会、懇親会等	有料

会員情報ホームページ

会報やアルバムなど会員固有の情報は下記ホームページでご覧になれます。

<http://www.kogakuin.or.jp/koyukai/koho>

H19年6月～H20年5月 ユーザー名 パスワード:

平成20年度本会報 (Vol.129) の広告募集

社団法人工学院大学校友会から年1回発行「校友会報」誌に掲載する広告を以下の要綱により募集致します。

1. 対象：本学園卒業者（校友会会員）の所属する団体、組織、事業所等の広告
 2. 価格：A4サイズ。モノクロ 1ページ：10万円 1/2ページ：5万円 1/4ページ：2.5万円
 3. 募集締切：平成19年12月20日
 4. 掲載：校友会報Vol.129及びそのPDFをホームページに1年間掲載
 5. 原稿送付先：校友会事務局あてに郵送、電子メール等。 E-mail: jimul@kogakuin.or.jp
 6. 原稿形態：Word文書などの電子データを電子メールまたは郵送
 7. 問合せ先：電話 03-3342-2064 FAX 03-3342-2035 E-mail jimul@kogakuin.or.jp
- <ご参考> ・会報発行日：2008年4月末日 発行部数：約65,000部 配布先：校友会員・学内

編集後記

今日（3/20）の東京は、朝から雲一つない好天に恵まれ、また気象庁は、靖国神社境内の標本木の下で6輪の花を付けたことを確認し、テレビを通して東京の桜開花宣言を行った。この桜の開花日に工学院大学の卒業式並びに祝賀会（新宿京王プラザホテル）が挙行され、式典での三浦学長の祝辞では、「技術者としての誇りと自信と勇気を持って」と優しさ溢れるお祝いのお話があり、開花と合わせ卒業生の門出に相応しい幸先の良い一日になったことでありましょう。

是非共、後輩の方々には、若い力で大きく精一杯羽ばたいて、「社会に貢献できる、また色々な恩返しのできる人間」としてのご活躍を心から願っております。

さて、会員の皆様には、如何お過ごしでしょうか。

来る、5月27日(日)は、校友会の総会が開催されます。会報は少なくとも5月初めの連休明け前か早々にはお手元にお届けしなければなりません。

本会報 (Vol.128) は、執筆者初め広報部以外の関係部署の方々、そしてこの3月末で3年の任期を満了する8名の広報部メンバーのお力添えにより編纂されたものであり、部署を代表して、心より厚くお礼申し上げます。なお、8名の広報部メンバーは、引き続き4月以降の会報発送日まで新部員と共に責任を持って活動することにいたします。

会報の編纂に当たっては、今の時代を反映して、分担作業となる原稿の収集は、ほとんどの頁について、電子メールや電子媒体

により効率良く行われました。しかし、各担当者により収集された原稿は、一旦広報部の中核となる部長代行に入稿され、チェックを受けて印刷業者に配信し、ゲラ刷りにするシステムを取っているため、部長代行には時間的な負担と大きな責任を負わせることになりましたが、この経験は必ずや何かに付けて反映され、確りと実を結ぶことになるでしょう。

この部署の責任者である私は、丁度、古くて希な人間（古希：本人は多少の実感あり）にもなりましたので、同窓会も含め約35年間強のボランティア活動でしたが、この3月末で校友会活動は同窓会を通して辞退させて頂きました。大変お世話になりました部員の方々には深く感謝を申し上げます。

最後になりましたが、無事に会報の発行が整いましたのは、執筆および事務局を含む関係者の皆様のご支援によるものであり、下記広報部メンバーに代わり、改めて心より厚くお礼申し上げます。また、会員の皆さまには、今後とも良きご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

平成19年3月20日(火)片岡記

■広報部メンバー

広報担当副会長：片岡国幸（応化）
 広報部部長代行：名取勝敏（電気）
 広報部理事：田村久義（機械） 広報部理事：小山内敏（応化）
 広報部理事：浅山行博（電気） 広報部理事：加藤隆弘（建築）
 広報部理事：岡安 彰（高等） 広報部理事：佐藤敏勝（専門）

Tokyo Urban Tech
工学院大学・校友会報 vol.128

発行●2007年4月20日

発行所●社団法人工学院大学校友会
 〒163-8677
 東京都新宿区西新宿1-24-2
 ☎ 03-3342-2064
 ☎ 03-3340-1649
 FAX 03-3342-2035
 E-mail:jimul@kogakuin.or.jp
 http://www.kogakuin.or.jp

制作●社団法人工学院大学校友会・広報部
 印刷所●株式会社メディアオ
 〒101-0064
 東京都千代田区猿樂町2-1-14
 A&Xビル
 ☎ 03-3296-8088
 FAX 03-5280-9171



<http://www.kogakuin.or.jp>